

# 金融リテラシー1万人調査の概要

— 男女・年代による金融リテラシーと投資行動の特徴【若年層編】—

2018年9月

MUFG資産形成研究所

# 調査概要

- (1) 調査名： 金融リテラシー1万人調査
- (2) 調査方法： リサーチ会社を利用したWEBアンケート
- (3) 調査期間： 2017年12月1日（金）～2017年12月4日（月）
- (4) 調査対象： 企業勤務者8,500名（企業規模300人以上の会社）および、  
公務員1,000名、専業主婦・主夫500名の合計10,000人を対象  
※ 企業勤務者(8,500人)の年代(30歳代以下・40歳代・50歳代以上)および男女の構成比は、総務省「就業構造基本調査」(平成24年)における正規職員・従業員300人以上の企業と同分布となるよう割付。
- (5) 本調査設問数： 38問

## <企業勤務者>

	男性		女性		合計	
30歳代以下	2,984人	35.1%	1,134人	13.3%	4,118人	48.4%
40歳代	2,077人	24.4%	417人	4.9%	2,494人	29.3%
50歳代以上	1,630人	19.2%	258人	3.0%	1,888人	22.2%
合計	6,691人	78.7%	1,809人	21.3%	8,500人	100.0%

## <若年層・企業勤務者の内訳>

	男性		女性		合計	
29歳以下	356人	8.6%	314人	7.6%	670人	16.3%
30歳～34歳	912人	22.1%	422人	10.2%	1,334人	32.4%
35歳～39歳	1,716人	41.7%	398人	9.7%	2,114人	51.3%
合計	2,984人	72.5%	1,134人	27.5%	4,118人	100.0%

# はじめに

## 若年層・男女の金融リテラシーと投資行動の分析

- ▶ 家計の資産分散の一環として、生活に根づいた投資のすそ野拡大を意図するとき、本来は金融リテラシーの水準に応じた対策が望ましく、また効果的なことは言うまでもありません。
- ▶ 金融リテラシー水準を個別に把握できれば良いですが、多くの人を対象とする場合には、何かしらのカテゴリーに分けて、その特性に応じた対応をすることが必要となります。
- ▶ カテゴリー分けの基準としては、収入や保有資産など多くの切り口がありますが、ある程度明示的に把握可能な、分かりやすい属性であることも必要です。
- ▶ 本資料では、その例として、企業勤務者(8,500名)について「男女」・「年代」といった属性で分析を行い、その中でも特徴のある30歳代以下(若年層)の男女の傾向について、ご紹介します。
- ▶ 若年層の男性は、金融に関する興味・関心が相対的に高いものの、投資の目的が比較的短期となる傾向がみられます。また、女性は、関心はあるものの自身の金融知識の水準に自信が持てず、人づてで入手した情報を重視するといった傾向がみられます。
- ▶ あるカテゴリーに属する人全員に特定の傾向があるわけではありませんが、大まかな傾向として参考となる材料だと考えられます。金融教育もマーケティングのひとつだと言っているのではないのでしょうか。

# 時代背景

## 若年層(30歳代以下の企業勤務者)が生きてきた時代

### “ポスト団塊ジュニア世代”

1979年～1983年生まれ頃  
30代後半(昭和最後の世代)

#### 時代背景

- 高度経済成長期からのバブル崩壊
- 第一次就職氷河期の最後の世代
- 「夫婦+子ども2人」の標準家庭の定着
- フリーターや非正規社員が増加

#### 特徴

- 子供時代からテレビゲームに親しみ、高校・大学時代にインターネットが普及
- 同世代が多く、競争意識が強い

#### 所見

幼少期にバブルが崩壊し、親世代の不安定な給与を見て育ったことから、堅実な傾向がある世代。

### “ゆとり世代”

1987年～1994年生まれ頃  
20代前半～30代前半

- 世界的経済不況(リーマンショック)
- 少子化時代の到来とゆとり教育
- 第二次就職氷河期
- 未婚率の上昇と単独世帯の増加

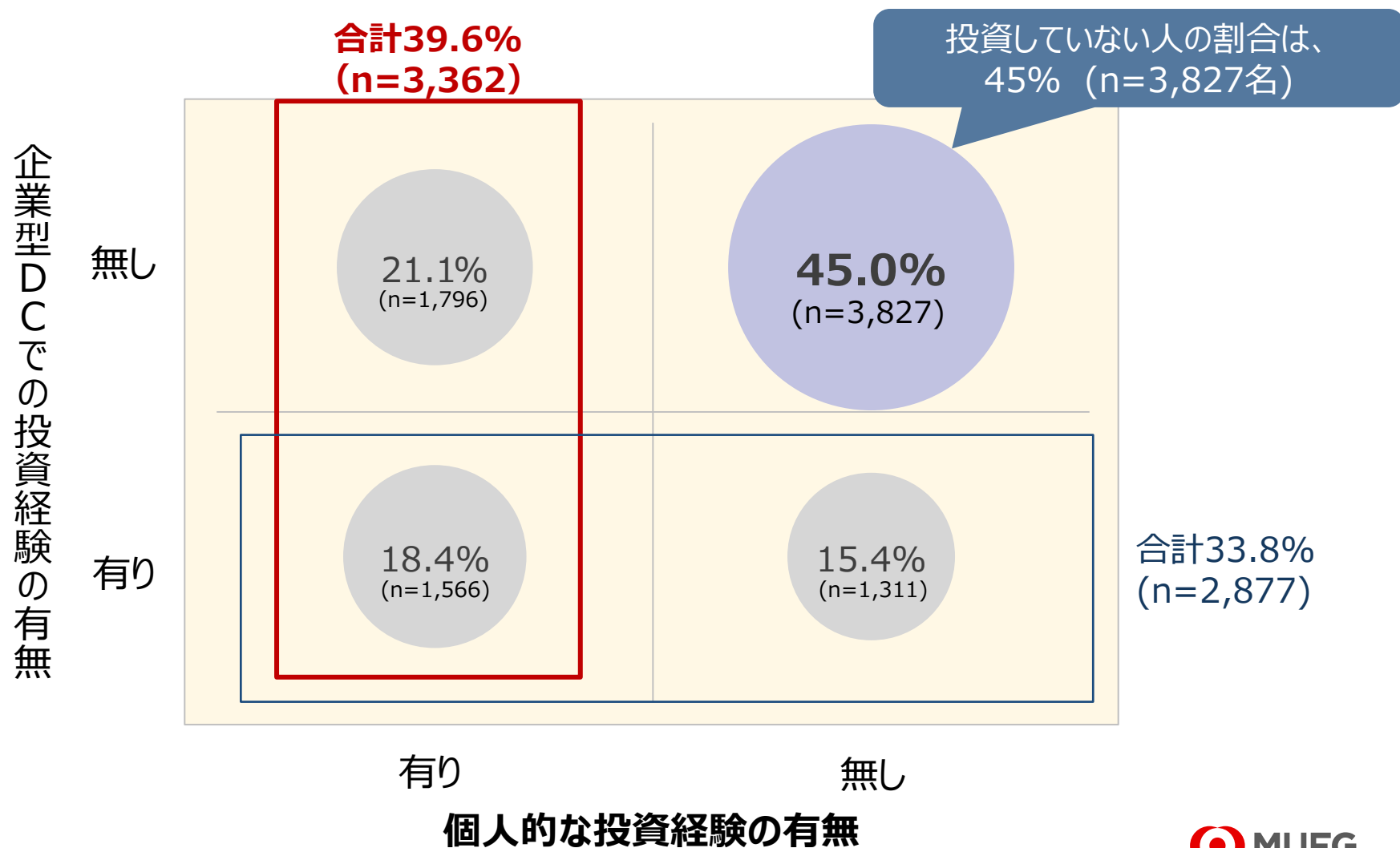
- 中高生時代に「ケータイ」が普及
- 情報過多の中で、選択に迷い、消費意欲が低い(車・お酒・海外旅行離れ)

リーマンショックに伴う就職氷河期を経験し、将来に対するリスクを過大にみる傾向あり。安定志向が高く、将来に備えて貯蓄しようという気持ち強い世代。

# 投資経験有無別のマトリクス

## 投資経験有無の詳細(企業勤務者：8,500名)

- 本調査では、企業型DCでの投資経験と個人的な投資経験を区分して調査をしています。
- 本レポートでは、「個人的な投資経験」につき分析を実施しています。



# 投資実施までの5つのステップ

## 「投資実施までの5つのステップ」の調査

- 本調査では、個人的な投資経験について、投資実施までの段階を「5つのステップ」に区分し、各ステップに到達している人の比率を「**残存率**」と定義しています。本レポートでは、「投資実施までの5つのステップ」を活用し、分析しているページがあります。

1

投資未検討

投資をしようと思ったことはない、投資用口座の開設を検討したことはない

2

投資検討

投資用口座の開設を検討したことはあるが、実際には手続きをしなかった

3

口座開設  
手続き開始

投資用口座の開設の手続きを開始したが、途中で止めてしまった

4

口座開設  
手続き完了

手続きを完了して投資用口座を開設したが、投資しなかった（投資していない）

5

投資実施

開設した投資用口座で、実際に投資を実施したことがある

※各スライドでご紹介しているアンケートの回答者について、上記番号(1~5)でお示ししているページがあります。

例) 「回答者：2 3 4 5」と記載している場合、2(投資検討)、3(口座開設手続き開始)、4(口座開設手続き完了)、5(投資実施)の人が回答しているアンケートであることをお示しています。

# 目次

1. 本レポートの要旨	.....	P.7
2. 「男女」による若年層の金融リテラシーと投資行動の特徴	.....	P.9
3. 「年代」による金融リテラシーと投資行動の特徴 【男性編】	.....	P.19
4. 「年代」による金融リテラシーと投資行動の特徴 【女性編】	.....	P.36

# 1. 本レポートの要旨



# 「男女」「年代」による金融リテラシーと投資行動の特徴

	男性の特徴	女性の特徴
金融リテラシー ・ 金融行動	相対的に <b>高い傾向</b>	相対的に <b>低い傾向</b>
投資の状況	<ul style="list-style-type: none"><li>• 「投資検討」は7割、「投資実施」は4割強</li><li>• <b>主に国内株式</b>から投資を開始</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 「投資検討」は6割弱、「投資実施」は3割</li><li>• 国内株式に次いで、<b>投資信託</b>から投資を開始している人も多い</li></ul>
理解・関心	自身の理解度に関し、 <b>自信過剰傾向</b>	自身の理解度に関し、 <b>等身大の認識</b>
情報収集	ウェブサイトに加えて、 <b>文字媒体を重視</b>	ウェブサイトに加えて、 <b>人づての話を重視</b>
若年層の特徴 (他年代との比較)	<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>投資の実施比率が高い</b></li><li>• 金融への<b>理解度や関心・学習意欲も高い</b></li><li>• 投資の目的を「<b>短期的な利益</b>」「<b>節税</b>」「<b>社会勉強</b>」とする人の割合が高い</li><li>• インターネットやスマホアプリの活用率が高く、<b>情報収集に積極的</b></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>投資の実施比率が低い</b></li><li>• 金融への関心・学習意欲は高い一方、自身の<b>金融知識の水準に自信を持ってない</b>人の割合も高い</li><li>• 「<b>人づて</b>」の<b>情報を重視</b>する人の割合が高い</li><li>• インターネットや<b>日常生活で使用するようなスマホアプリ</b>の活用率が高い</li></ul>

## 2. 「男女」による若年層の金融リテラシーと投資行動の特徴

## 「男女」による若年層の金融リテラシーと投資行動の特徴

### 金融リテラシー ・ 金融行動

男性の方が相対的に金融リテラシーや金融行動の水準が高い。

### 投資の状況

- 男性は女性と比較して、「投資検討」のステップに到達した人の割合が約14%高い。
- 男女ともに国内株式の個別銘柄から投資を開始している比率が高いが、特に男性はその比率が6割を超える。女性の場合は、国内株式の個別銘柄に次いで、投資信託から投資を開始している人の比率も高い。

### 理解・関心

自身の理解の程度に関し、女性は等身大の回答、男性は自信過剰な傾向。

### 情報収集

金融商品売買時に重視する情報としては、ウェブサイトによる情報収集の他、男性は雑誌・書籍・新聞等の文字媒体を、女性は人づての話を重視する傾向。

# 男女別の金融リテラシー

全年代において、男性の金融リテラシーが相対的に高い

- 男性の金融リテラシーの水準が相対的に高い傾向。
- 女性は、年代が高くなる毎に金融リテラシーが高まる。

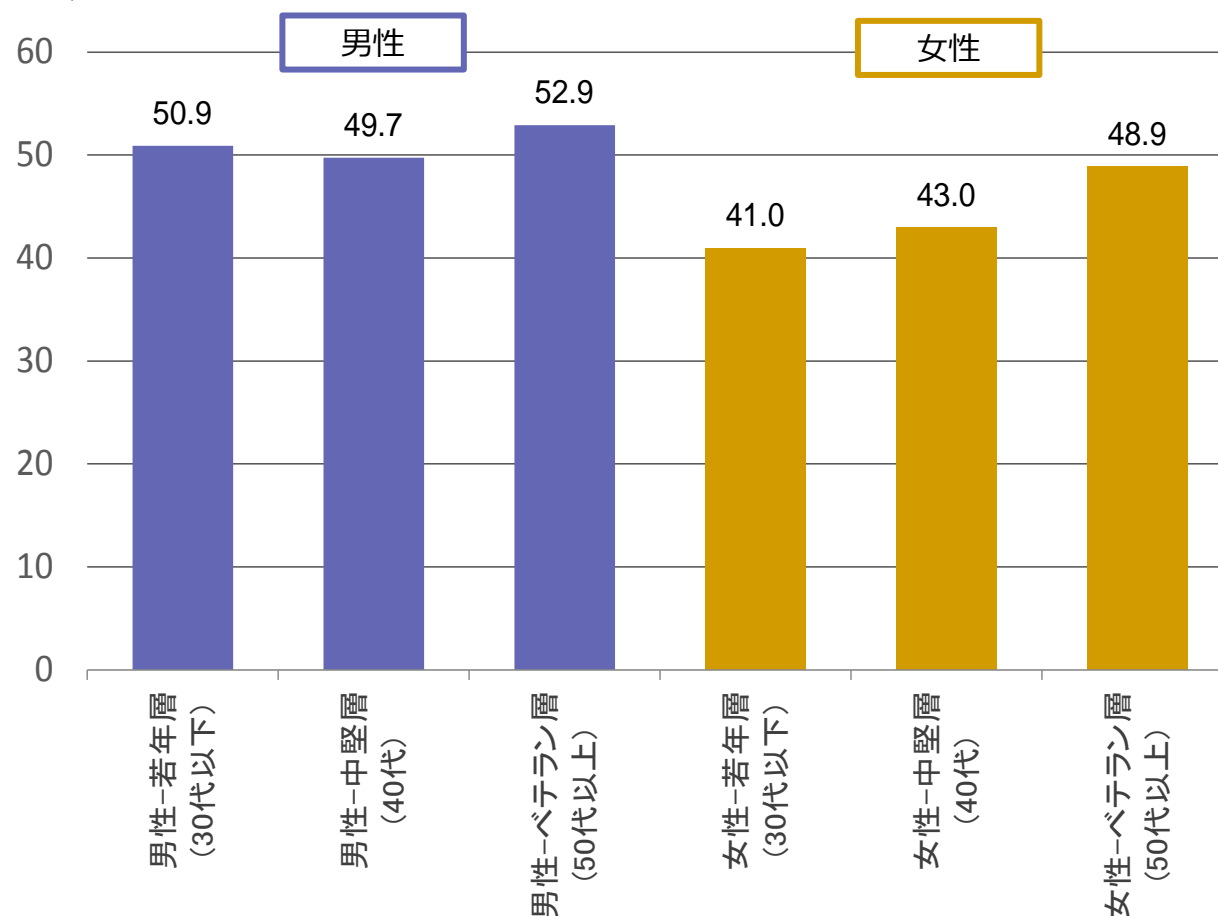
## ポイント

**金融リテラシー指数得点とは**  
ここで定義する「金融リテラシー」とは、「適切な金融行動」(次頁参照)を行うために必要となる、経済・金融に関する知識や生活設計に関する行動様式等を目指し、間接的に金融行動のレベルを測るもの。金融リテラシー指数得点は、金融行動に影響すると考えられる「経済理論」、「金融知識」、「生活設計」をもとに算出したものです。

## 金融リテラシー指数得点

(回答者) 企業勤務者

(n=8,500)



# 男女別の金融行動

## 全年代において、男性の金融行動が相対的に高い

- 金融リテラシーと同様、金融行動についても、男性の水準が相対的に高い傾向。
- 男女とも、年代による大きな差はみられない。



### ポイント

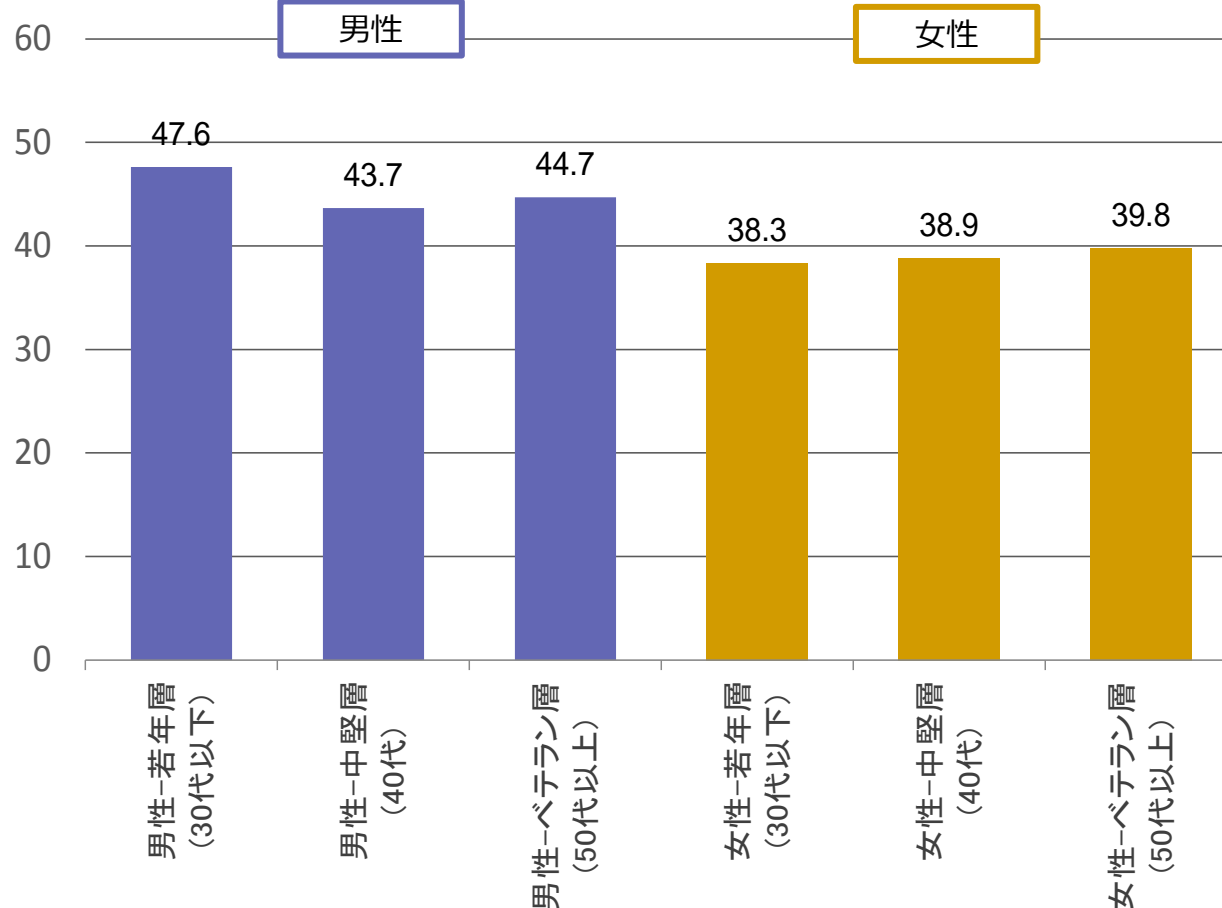
#### 金融行動得点とは

ここで定義する「金融行動」とは、投資の有無には直接は関係なく、金融商品や自身の金融資産・ライフプランについて、能動的に情報を収集し、自律的な判断(周りの情報に流されない)によって行動することを指します。金融行動得点は、「適切な金融行動」を100点として、金融行動を得点化したものです。

### 金融行動得点

(回答者) 企業勤務者

(n=8,500)

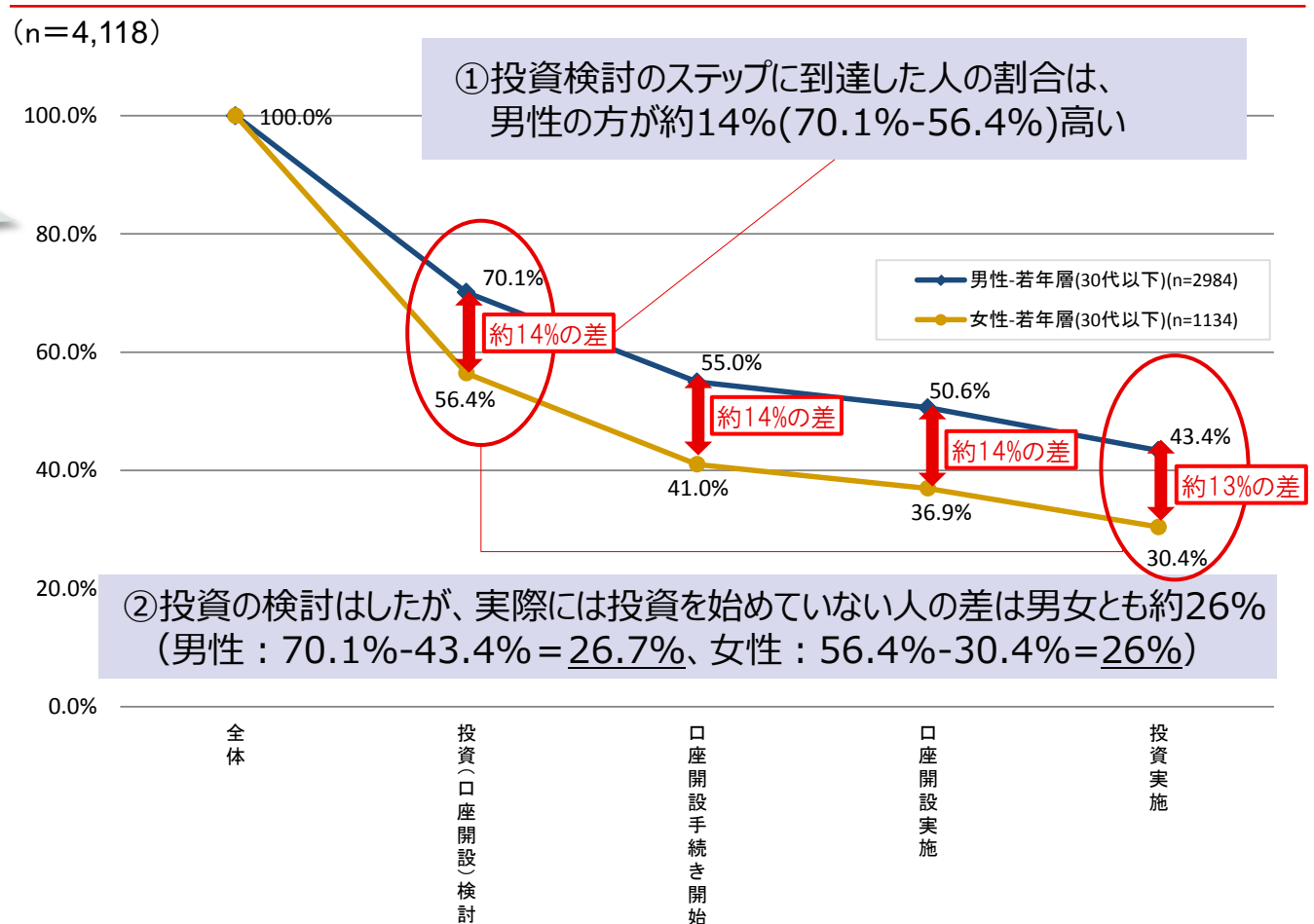


# 投資の状況① — 投資の検討から実施までの段階別残存率

男性は女性と比較して、「投資検討」に到達した人の割合が約14%高い

## 投資の検討から実施までの段階別残存率※1

(回答者) 企業勤務者のうち、若年層



- ① 男性は女性と比較して、「投資検討」のステップに到達した人の割合が約14%高く、その後の各ステップの差も同様。
- ② 投資を検討しながらも、実際には投資を始めていない人が、男女とも約26%存在する。

### 所感

- 女性は「投資検討」に至らない人の割合が男性と比較して高い。投資に対する姿勢は、男性の方が積極的、女性の方が消極的な傾向があるといえる。
- 「投資検討」の残存率の男女差は、その後のステップの残存率の差とほぼ同値。「投資検討」の残存率を上昇させることが女性の「投資実施」の割合を上げることに繋がる。

※1: 投資実施までの5つのステップに関し、それぞれの母集団のうち各ステップに到達している人が母集団全体の人数に占める比率

# 投資の状況② — 「投資検討」のステップに到達しなかった理由

## 女性が投資の検討をしない理由として「十分な知識がない」を挙げる人が7割超

### 投資（口座開設）の検討をしなかった理由

(回答者) 企業勤務者のうち、個人的な投資経験<sup>※1</sup>について「投資（口座開設）を検討したことがない」を選択した人(3,182名)のうち、若年層

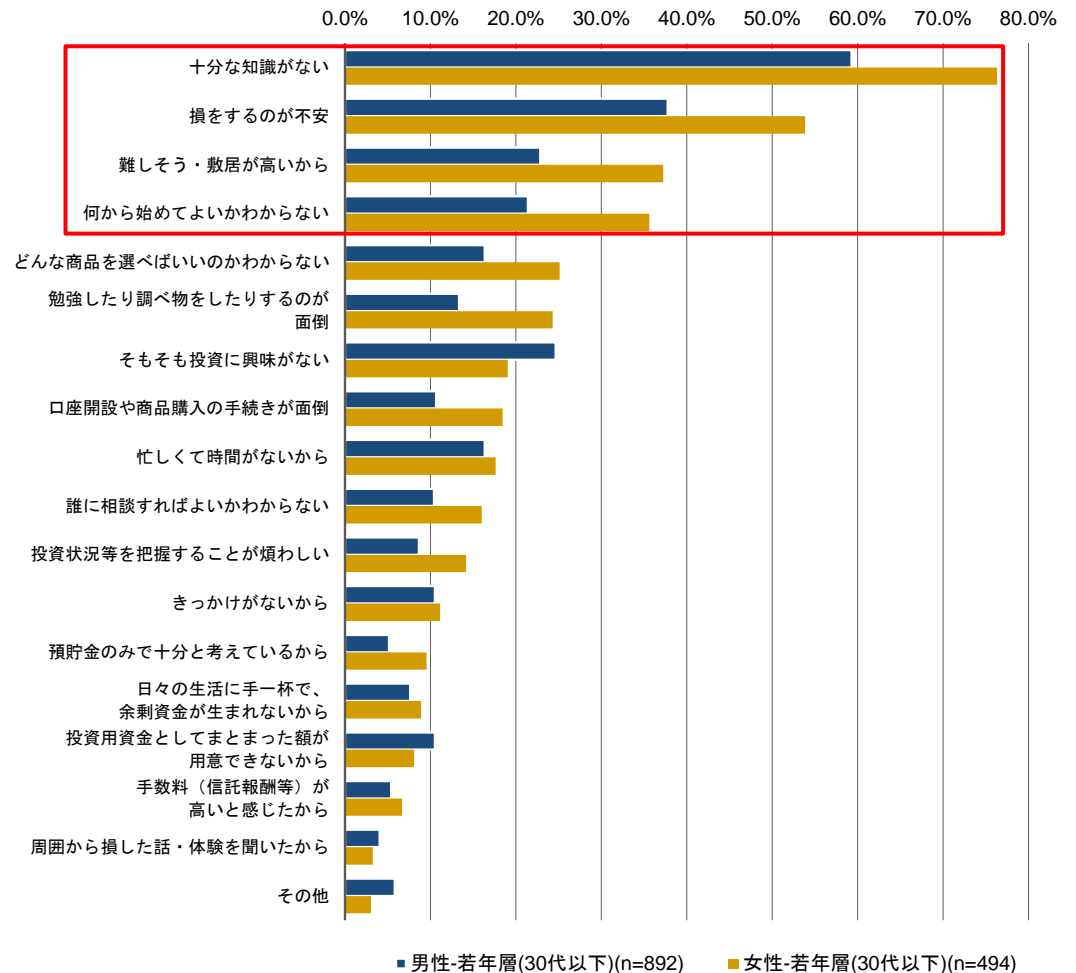
1

- ①「十分な知識がない」と回答した人の割合は、男性6割弱、女性7割超と、女性の方が高い。
- ②他にも、「損をするのが不安」「難しそう・敷居が高いから」「何から始めてよいかわからない」等の割合も女性の方が相対的に高い。

#### 所感

- 「投資検討」のステップに到達しなかった人の7割超が、その理由として「知識不足」を挙げている。
- 女性は男性と比較して投資に関する自身の知識に自信を持ちにくい様子が見られる。

(n=1,386)



※1: 企業型DCでの投資経験を除く

# 投資の状況③ — 投資経験者が、最初に取引を開始した資産

## 男女とも国内株式から投資を開始する人の割合が高い

- ①男女ともに、国内株式から投資を開始する人が多く、男性の場合は60%弱を占める。
- ②投資信託から投資を開始する割合は、女性の方が高い。

### 所感

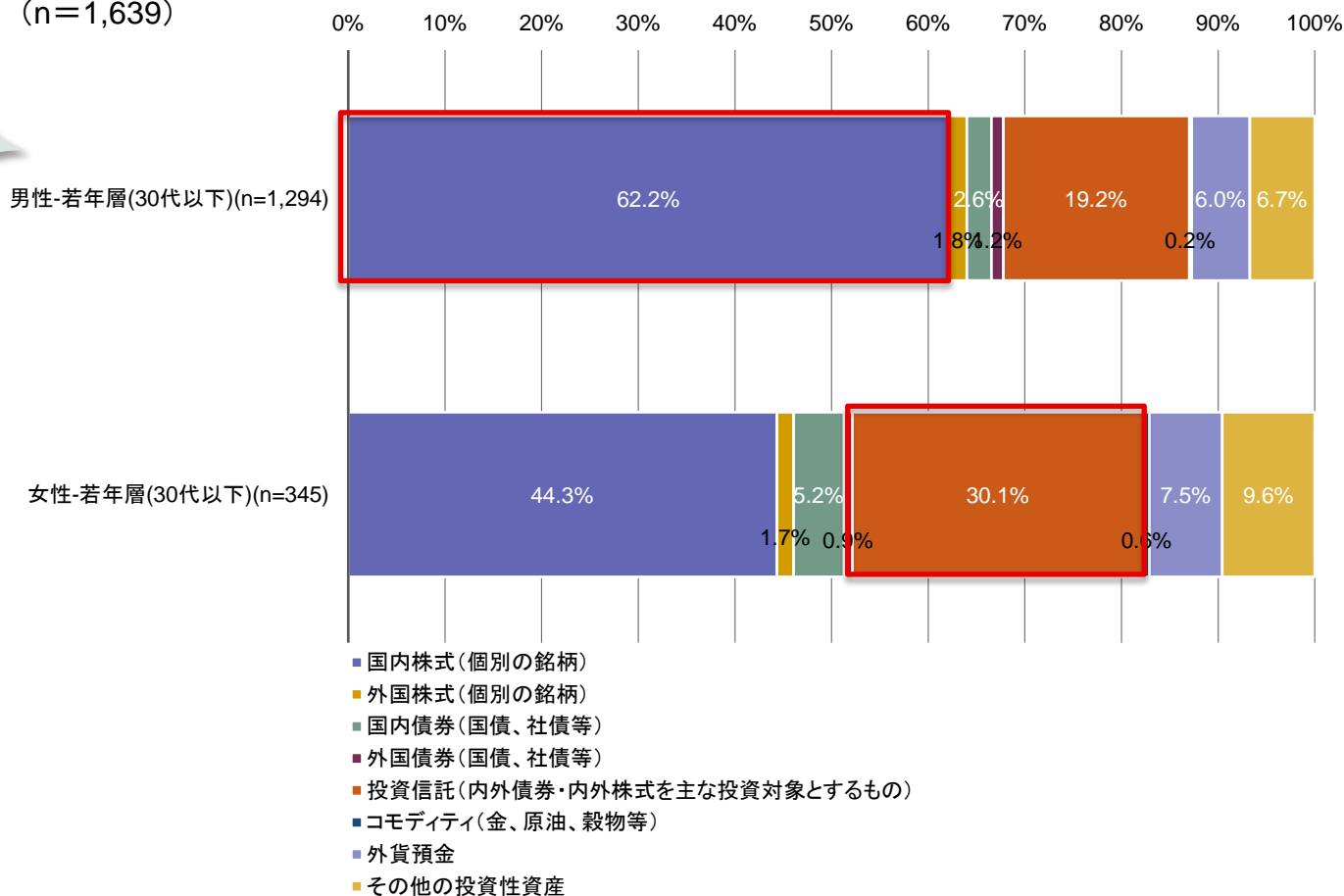
国内株式の投資対象として「わかりやすい」「馴染みがある」との側面が評価されると予想される。

### 投資経験者が、最初に取引を開始した資産

(回答者) 企業勤務者のうち、個人的な投資経験<sup>※1</sup>について「開設した投資用口座で、実際に投資を実施したことがある」を選択した人(3,362名)のうち、若年層

5

(n=1,639)



※1: 企業型DCでの投資経験を除く



## 自身の理解の程度に関し、女性は等身大の回答・男性は自信過剰な傾向

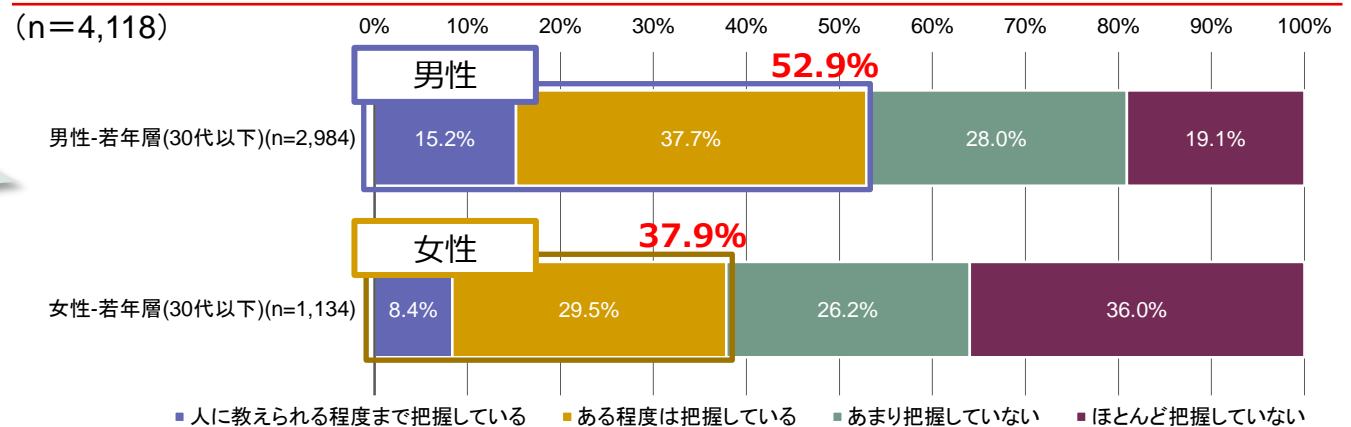
- ① NISA制度に対する自身の理解度に関し、男性は5割超、女性は4割弱が「把握している」と回答。
- ② 一方、NISA制度に関するテスト問題の正答率は、男性4割超、女性4割弱で、男女差はない。

### 所感

本頁はあくまでも「NISA制度」に関する回答状況であるが、自身の理解度に関する評価とテスト問題への正答率を比較すると、男性には自信過剰な傾向が、女性には慎重な傾向があるといえる。

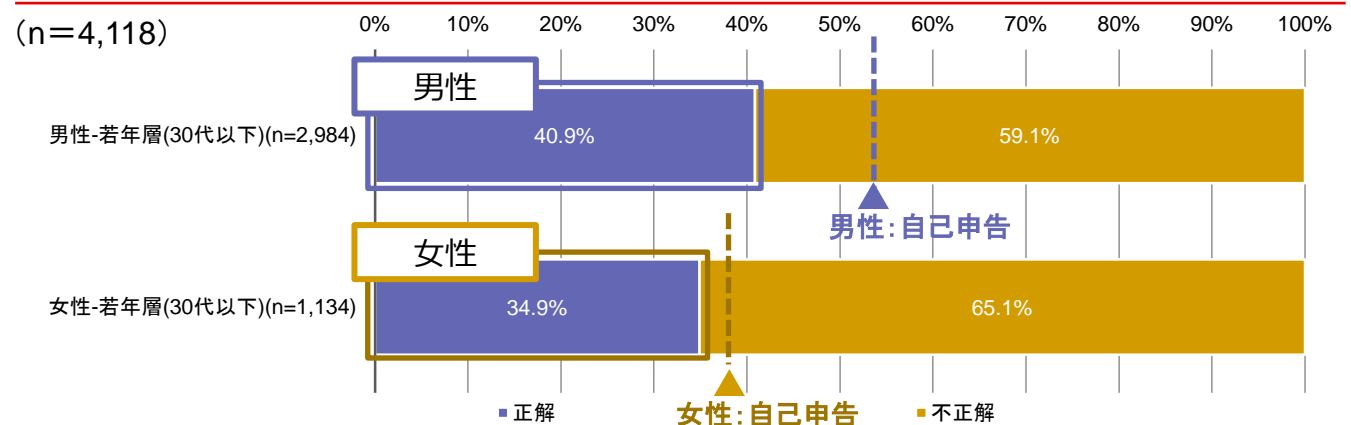
### NISA制度に関する理解の程度（自己申告）

（回答者）企業勤務者のうち、若年層



### NISA制度に関するテスト問題※1の正否

（回答者）企業勤務者のうち、若年層



※1:【テスト問題の概要】NISA制度の概要に関する記述に対して、5つの選択肢から正しい選択肢1つを選択する問題。

# 情報収集 - 金融取引の際に重視する情報

## ウェブサイトに加えて、男性は文字媒体を、女性は人づての情報を重視する傾向

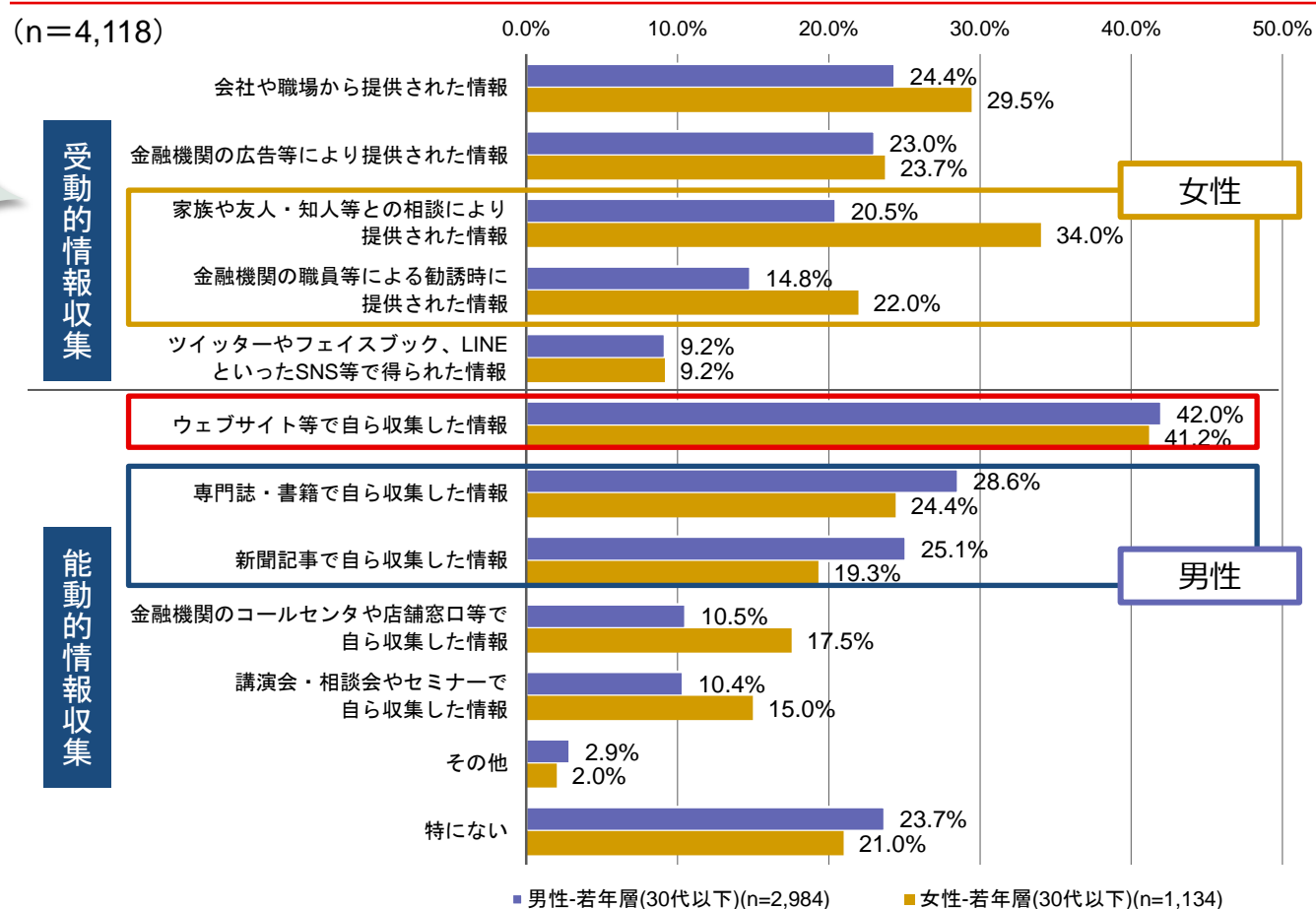
金融商品売買時の情報として、男女ともウェブサイトからの情報に加えて、  
**男性は新聞・書籍等の文字媒体からの情報を、**  
**女性は友人・知人・金融機関の職員等、人づての情報を重視する傾向。**

### 所感

男性は投資に関しては自信過剰となる傾向があるため、「自ら収集」した情報を重視する傾向にあり、  
 女性は反対に慎重な傾向があるため、投資に際しては周囲の一押しを重視する傾向にあるのではないかと。

### 金融商品売買時に重視する情報

(回答者) 企業勤務者のうち、若年層



# (ご参考)金融商品売買時に重視する情報(金融リテラシーが高い若年層・男女別)

## 金融リテラシーが高い人でも、男性と比較して女性は「人づての情報」を重視する傾向

若年層のうち、金融リテラシーが高い人で比較しても、女性は男性よりも職場や友人・知人・金融機関の職員等、人づての情報を重視する傾向。

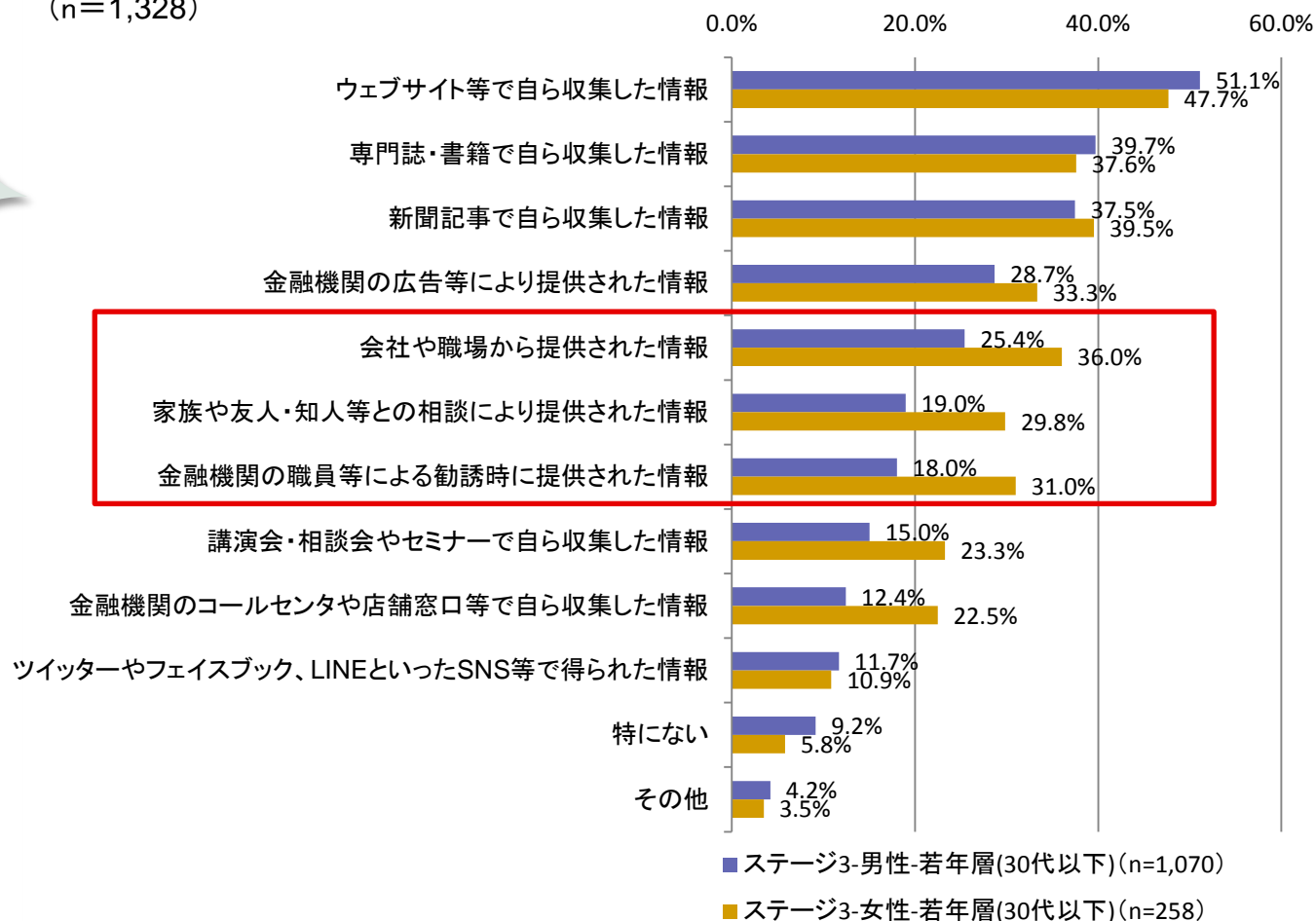
### 所感

「“男女”に関わらず、“金融リテラシーが低い人”は人づての情報を重視する」との見方もあるが、本調査によると、情報収集の傾向には「男女」による差があるとみることができる。

### 金融商品売買時に重視する情報

(回答者) 企業勤務者のうち、金融リテラシーステージ3<sup>※1</sup> (高リテラシー) の若年層

(n=1,328)



※1: 弊社では、金融リテラシー指数得点(11頁「ポイント」ご参照)に基づき、金融リテラシーをステージ1(低リテラシー)⇒ステージ2(中リテラシー)⇒ステージ3(高リテラシー)にカテゴライズし、分析しています。

### 3. 「年代」による金融リテラシーと投資行動の特徴【男性編】

金融リテラシー1万人調査の中から、他年代との比較において、  
若年層（30歳代以下）男性の特徴が特によく表れている設問を中心に  
掲載しています。

## 若年層（男性）の特徴

### 他年代との相対的な比較

- 投資の実施比率が相対的に高く、自身のライフプランや経済社会、投資への学びの意欲も高いが、投資実施の目的が長期というよりも短期志向になる傾向がある。
  - 節税意識やNISA等の制度への関心も相対的に高く、つみたてNISAを受け入れる素地がある。
  - 投資とは「中長期的な成長を享受すること」という考え方と、「少額でも長期に積立投資すること」の効果が認識されれば、投資家層としての拡大が見込める。
  - 安心感のある商品ならば、企業型確定拠出年金におけるデフォルトファンド※がバランス型であっても、理解が得られる可能性がある。
- (※)加入者からの運用の指図が行われるまでの間の運用方法として、あらかじめ規約に定められた運用方法（商品）。
- インターネットやスマホアプリの使用率の高く、情報発信や手続きの媒体としての活用が望まれる。

# 3-1.投資の状況 — 「投資実施までの5つのステップ」の割合

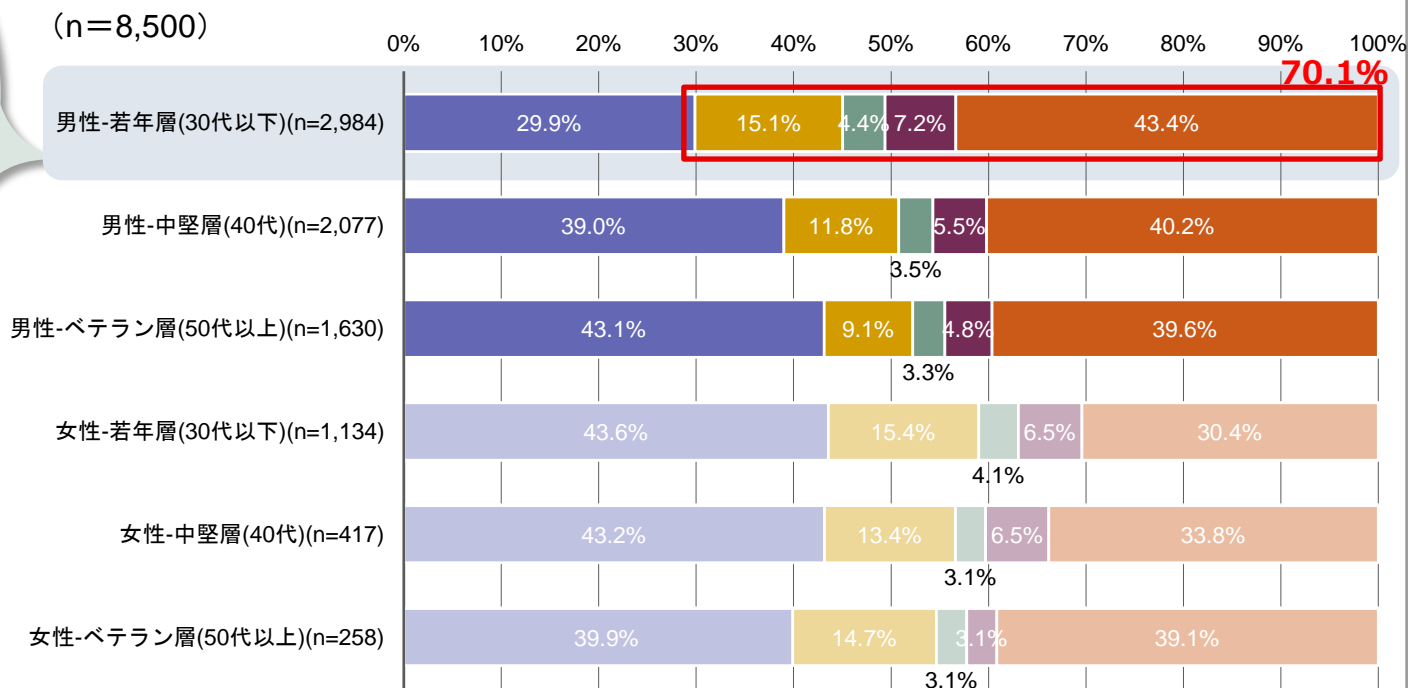
## 投資の実施比率が他年代の男性よりも高い傾向

- ①若年層の男性は、他年代の男性よりも投資実施の比率が高い。
- ②「投資未検討」以外の人の比率は70%に達している。

### 所感

若年層の男性においては投資の実施比率が高い。投資実施までのステップのどこに位置するかの違いはあれど、投資に対して前向きな姿勢がみられる。

各種投資用口座の開設に向けた検討・申込・開設・投資状況  
(回答者) 企業勤務者



### 【投資実施までのステップ】(5頁ご参照)

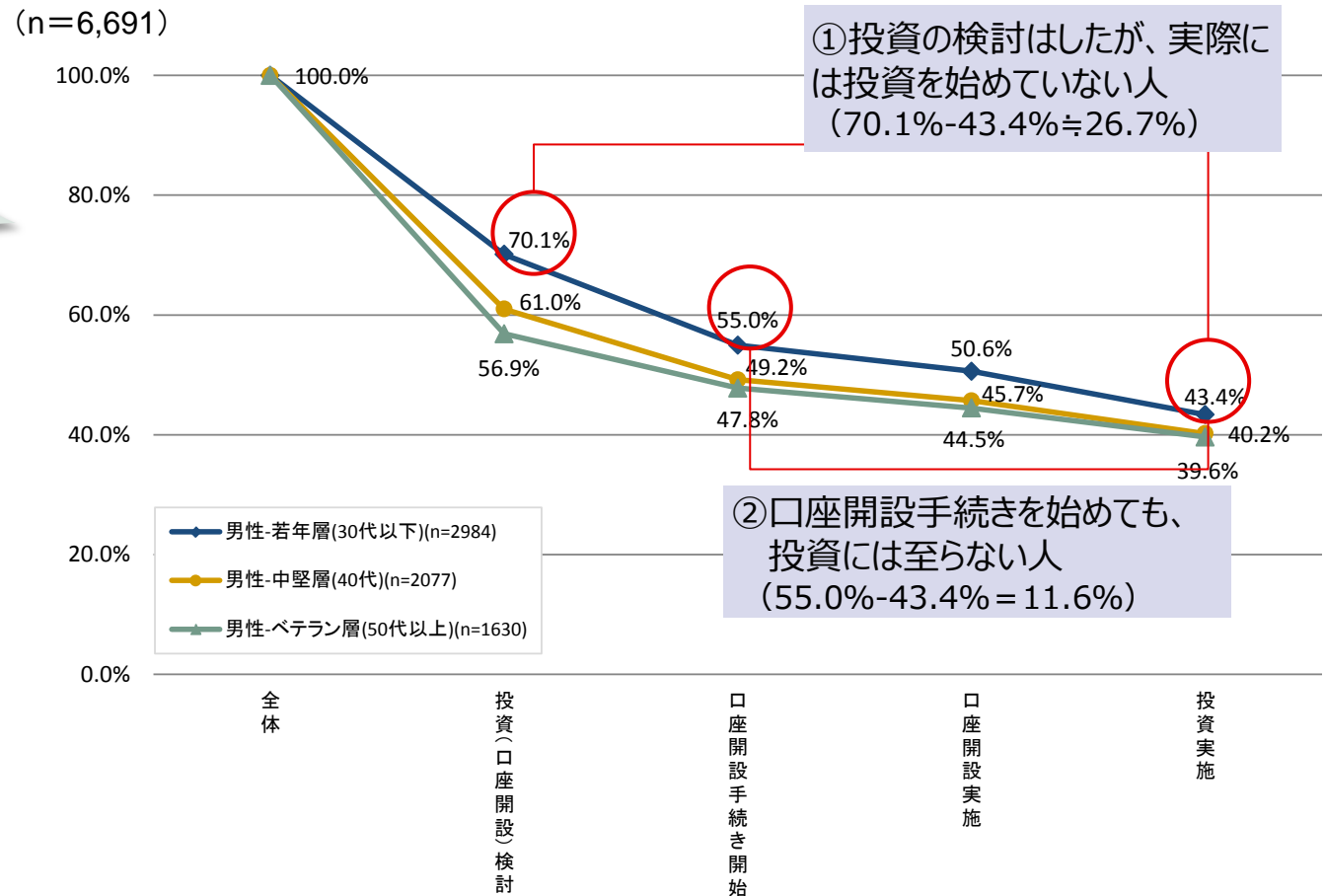
- 投資をしようと思ったことはない・投資用口座の開設を検討したことはない
- 投資用口座の開設を検討したことはあるが、実際には手続きをしなかった
- 投資用口座の開設の手続きを開始したが、途中で止めてしまった
- 手続きを完了して投資用口座を開設したが、投資しなかった(投資していない)
- 開設した投資用口座で、実際に投資を実施したことがある

# 3-1.投資の状況 — 投資の検討から実施までの段階別残存率

## 投資検討段階の残存率は他年代よりも高く、投資実施の割合も相対的に高め

### 投資の検討から実施までの段階別残存率※1

(回答者) 企業勤務者のうち、男性



- ① 投資を検討しながらも、実際には投資を始めていない人が、26.7%存在する。
- ② 投資口座の開設手続きを始めても、実際に投資するまでに、11.6%の人が離脱する。

#### 所感

- 投資を開始するまでのどの段階で検討または手続きを止めてしまうかによって、それぞれ理由があると思われる。
- その理由に応じた対策をとることで、「投資実施」のステップまでの残存率が高まる可能性がある。

※1: 投資実施までの5つのステップに関し、それぞれの母集団のうち各ステップに到達している人が母集団全体の人数に占める比率

## 3-2.理解・関心 — 生活設計への関心

### 他年代と比較して、生活設計への関心が高い傾向

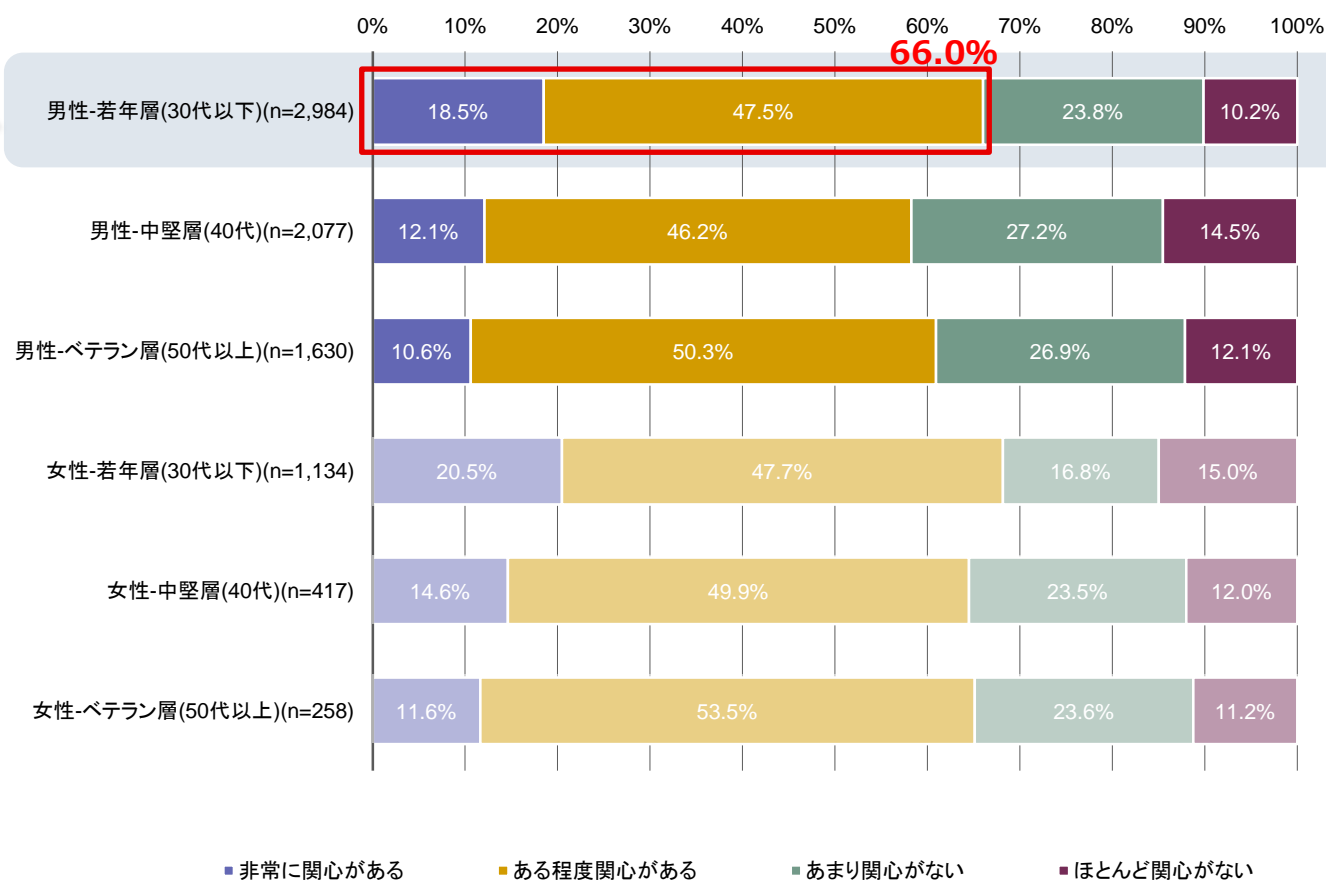
若年層の男性は、他年代の男性と比較すると、自身の生活設計への関心度合いが相対的に高い。

#### 所感

- 「関心がある」が7割弱を占め、生活を大切にしようという姿勢がみられる。
- 若年層の生活設計への関心が高いのは、これから経験するライフイベントが他年代よりも多く控えているためと思われる。

### 自身のライフプランを基にした生活設計への関心 (回答者) 企業勤務者

(n=8,500)





## 3-2.理解・関心 — 金融商品等の知識習得への関心度合い

### 他年代と比較して、金融商品の知識習得への関心が高い傾向

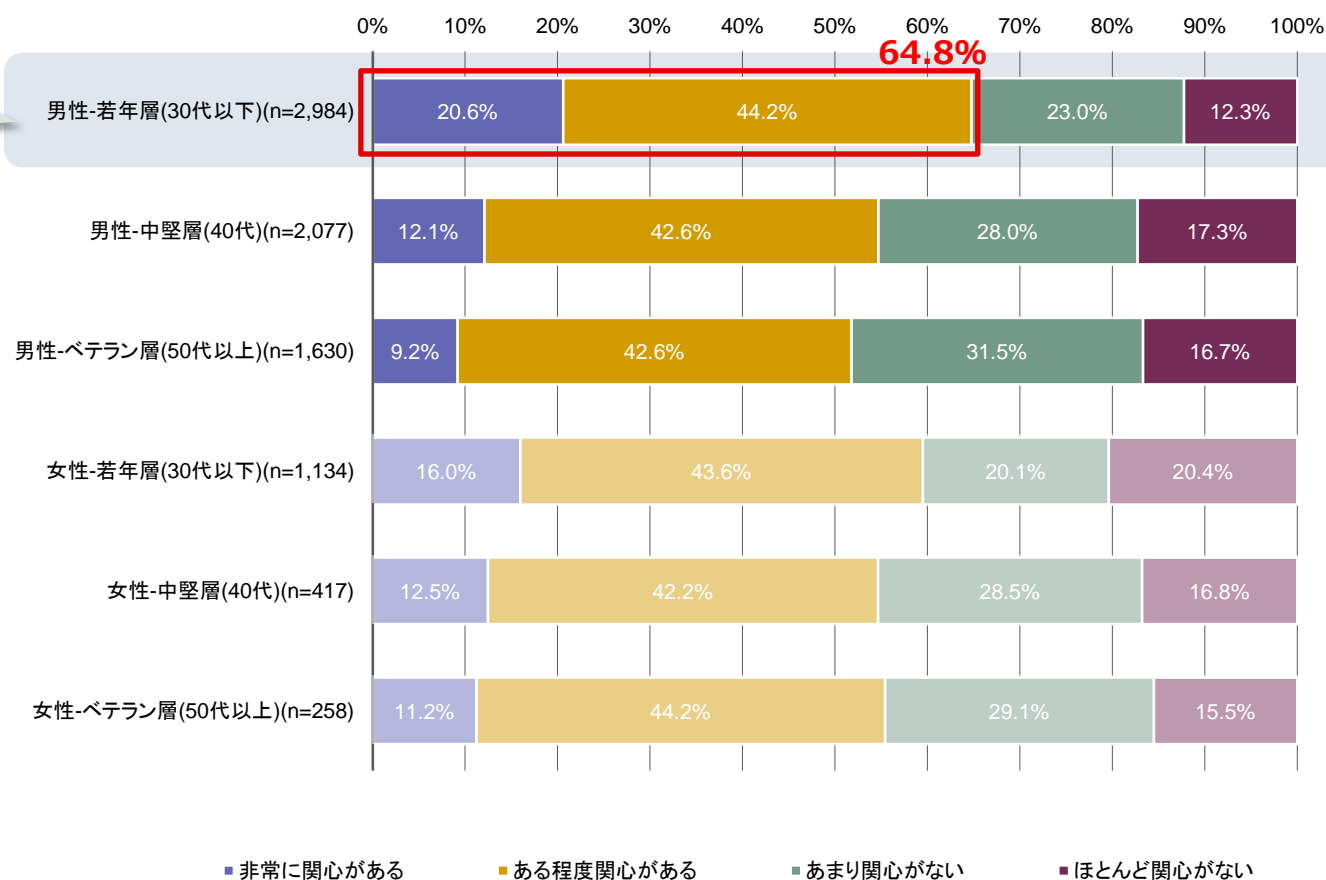
金融商品の知識習得への関心度について、6割超が関心を持っており、他年代と比較して高い。

#### 所感

「ある程度関心がある」が4割超、「非常に関心がある」も2割超を占め、金融商品に関する知識習得への意識が高い様子がうかがえる。

#### 金融商品等の知識習得への関心度合い (回答者) 企業勤務者

(n=8,500)



## 3-2.理解・関心 — 経済理論を理解する意欲

### 他年代と比較して、経済理論を理解する意欲が高い傾向

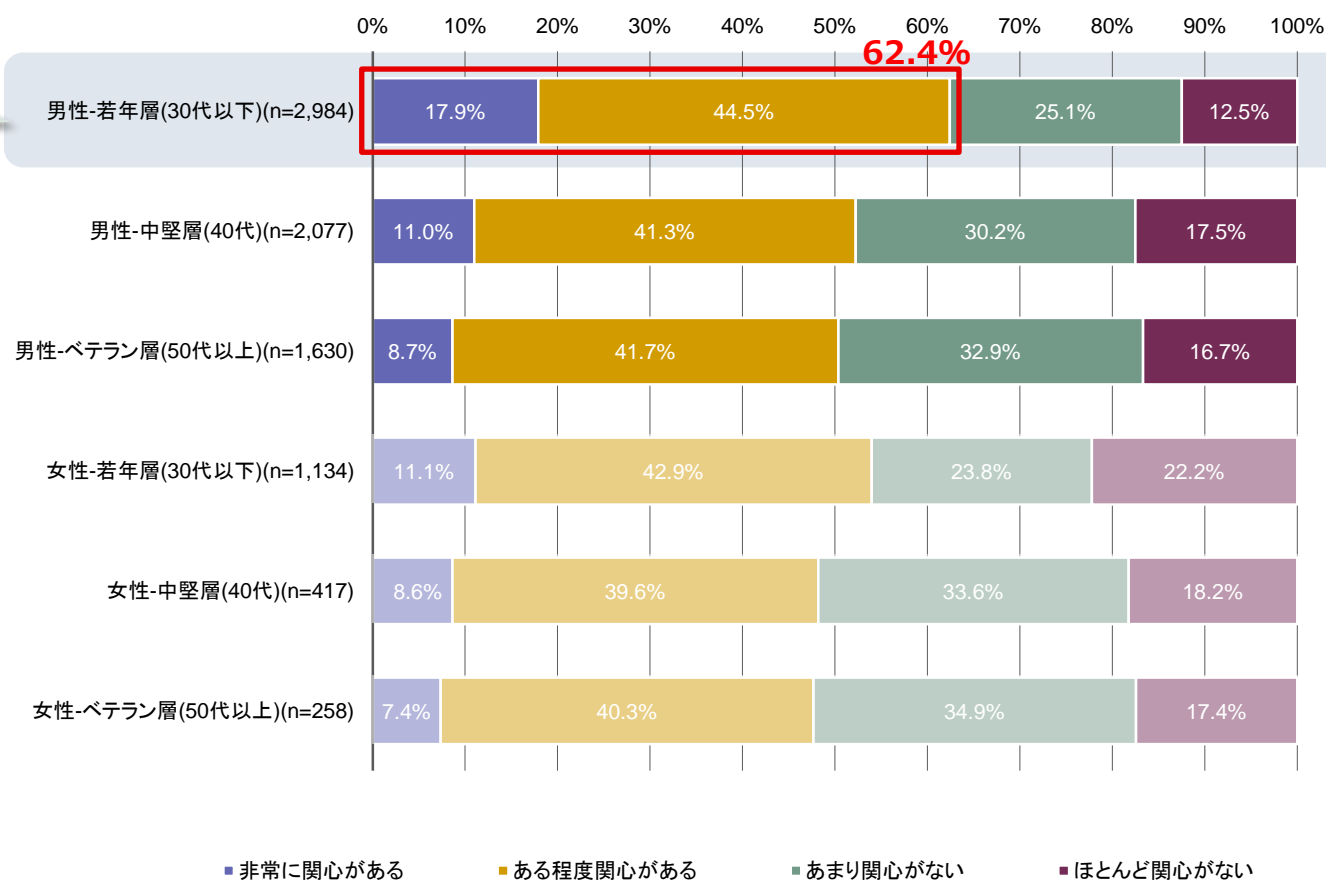
経済理論を理解する意欲について、6割超が関心を持っており、他年代と比較して高い。

#### 所感

若年層の男性は、「生活設計」「金融知識」「経済理論」いずれについても関心が高いことから、投資実施に繋がっていると思われる。

#### 資産運用等に関する経済理論を理解する意欲 (回答者) 企業勤務者

(n=8,500)



## 3-2.理解・関心 — NISA制度に関する理解

### 他年代と比較して、NISA制度に関する理解度が高い

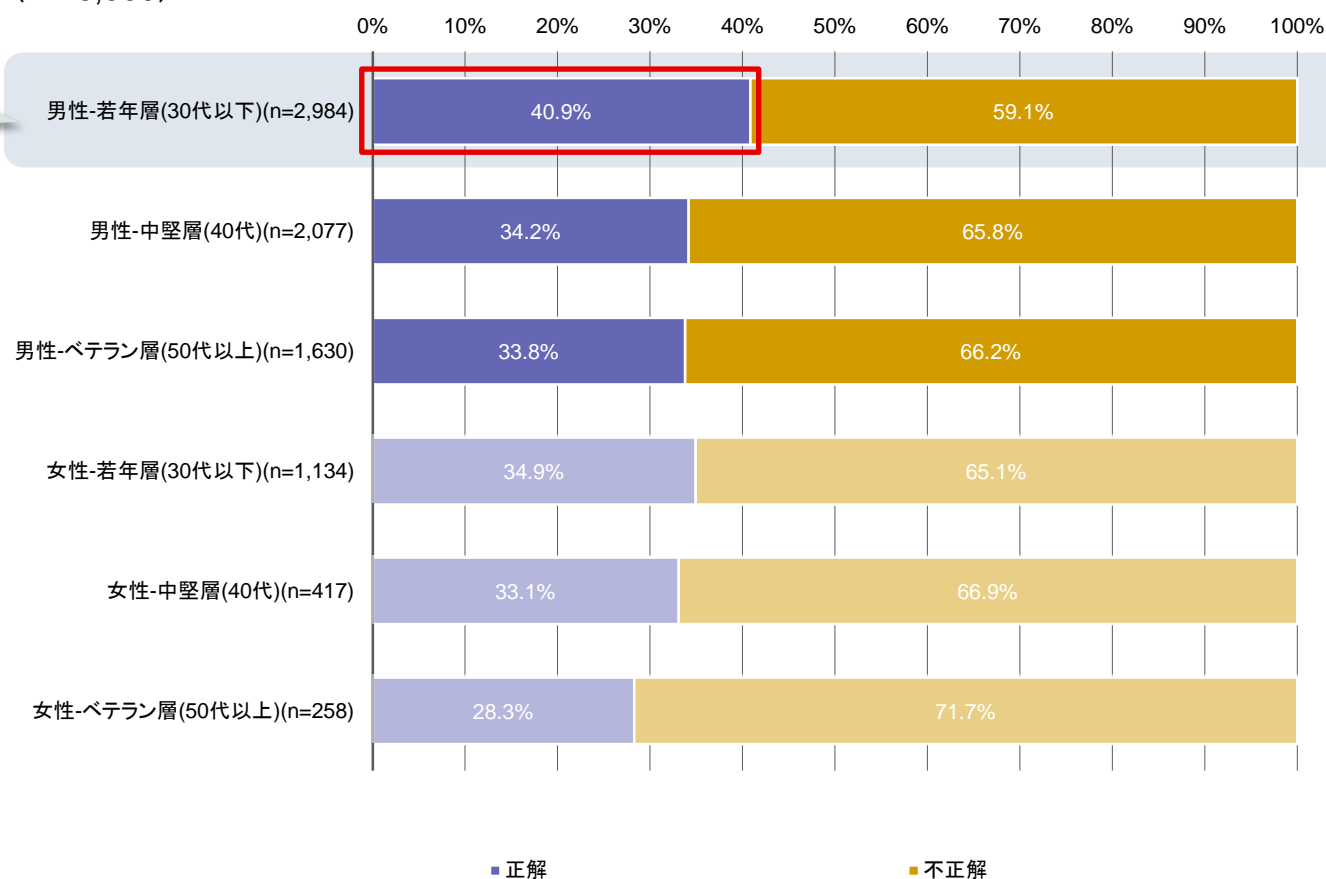
若年層の男性は、  
他年代の男性と比較して  
NISA制度に関する  
理解度が相対的に高い。

#### 所感

一般に、金融に関する理解度は年齢が上がるとともに上昇する傾向にあるとみられているが、本調査によると、逆の傾向がみられる。

#### NISA制度に関するテスト問題※1の正否 (回答者) 企業勤務者

(n=8,500)



※1:【テスト問題の概要】NISA制度の概要に関する記述に対して、5つの選択肢から正しい選択肢1つを選択する問題。

# 3-3.情報収集 — 投資開始後の学習状況

## ウェブを活用した学習の他、文字媒体を使用している人が多い

### 投資開始後の学習状況

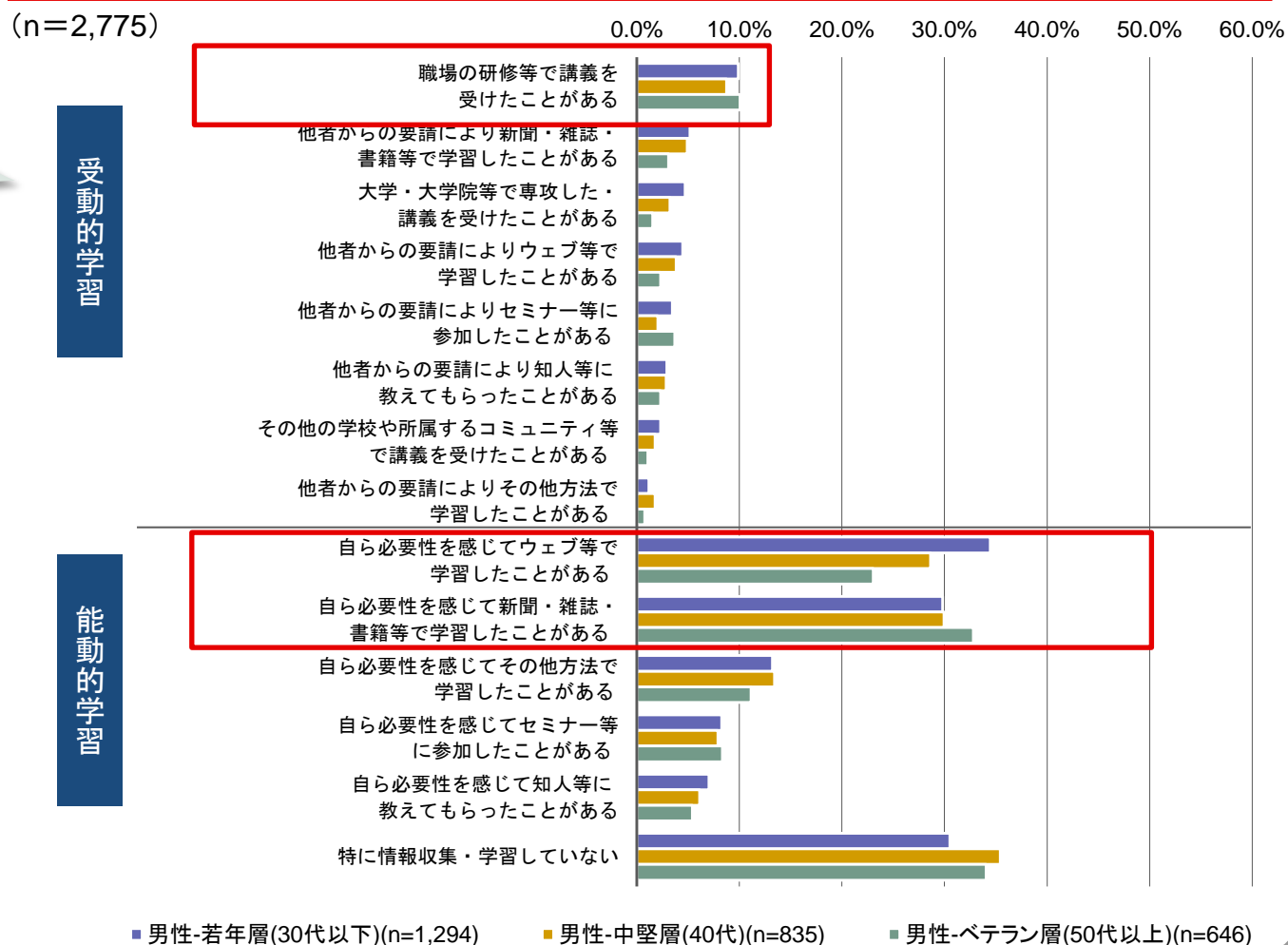
企業勤務者のうち、個人的な投資経験<sup>※1</sup>について「開設した投資用口座で、実際に投資を実施したことがある」を選択した人(3,362名)のうち、男性

5

投資開始後の学習の手段として、ウェブや新聞・雑誌・書籍等の文字媒体を利用する人が多い。中でも若年層は、ウェブを活用する比率が他年代と比較して高い。

#### 所感

- 投資開始後、自主的に学習する人が一定数存在。
- 職場の研修等で学習している人も1割程度存在。新入社員研修(若年層)や退職前の研修(ベテラン層)が実施されていることが背景にあると考えられる。



※1:企業型DCでの投資経験を除く

# 3-3.情報収集 — 「口座開設検討時」の情報収集

## 情報収集媒体としてはスマホ・携帯電話よりもパソコンが好まれる

### 口座開設検討時の情報収集媒体

(回答者) 企業勤務者のうち、個人的な投資経験<sup>※1</sup>について「投資（口座開設）を検討したことがない」以外を選択した人(5,318名)のうち、男性 2 3 4 5

口座開設を検討したときの情報収集媒体として、パソコンを活用して比較サイト等を見ている人の割合が高い。この傾向は、若年層ほど顕著に出ている。

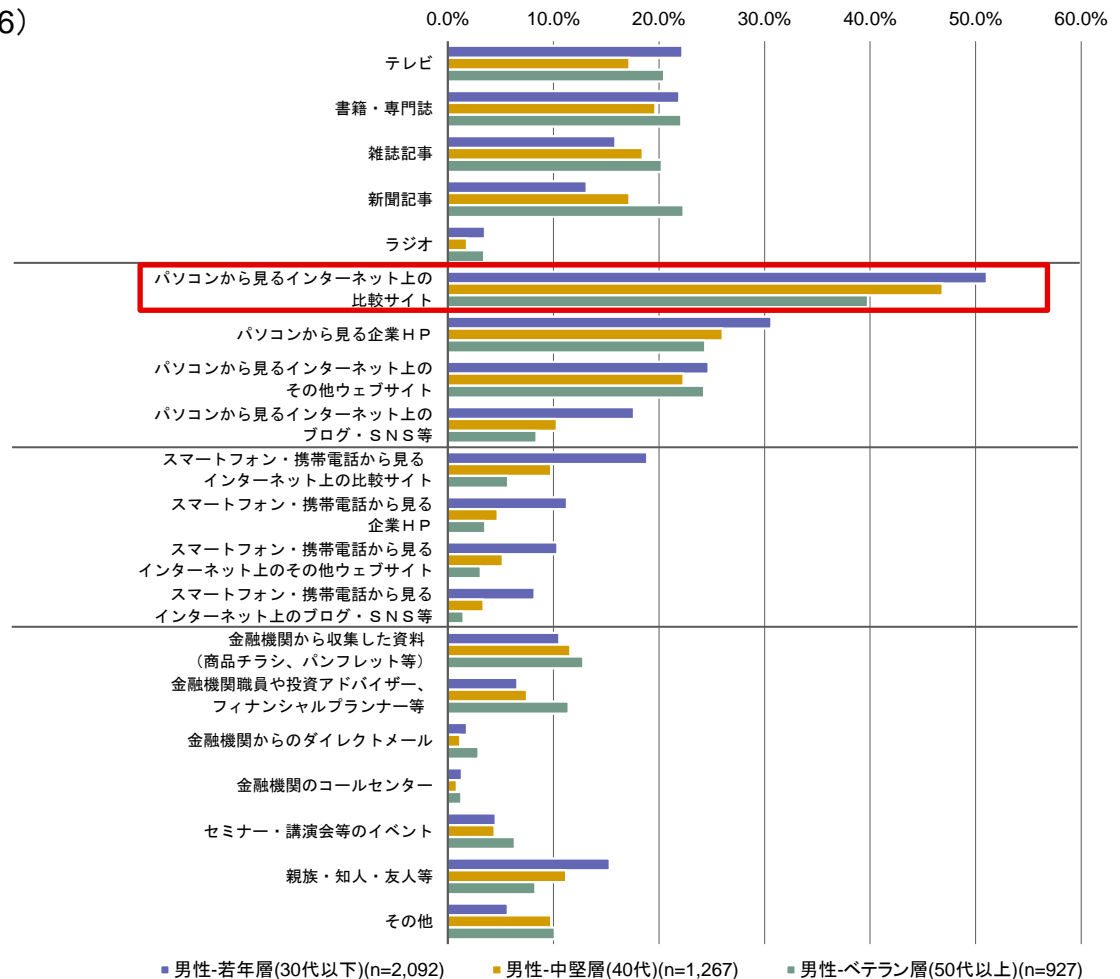
#### 所感

スマホが普及している割には、情報収集媒体としてパソコンを選択している人の割合が高い。

このこと背景としては、以下のことが考えられる。

- 口座開設については、自宅でじっくり腰を据えて検討したい。
- 全てのサイトがスマホに対応しているわけではないため、スマホでは比較検討しにくい。
- 関連する情報が多いため、スマホの画面よりも大きいパソコンの画面が好まれる。

(n=4,286)



※1: 企業型DCでの投資経験を除く

# 3-3.情報収集 — 「金融商品売買時」の情報収集

他年代と比較して多くの情報源を活用しており、情報収集に関して積極的な姿勢

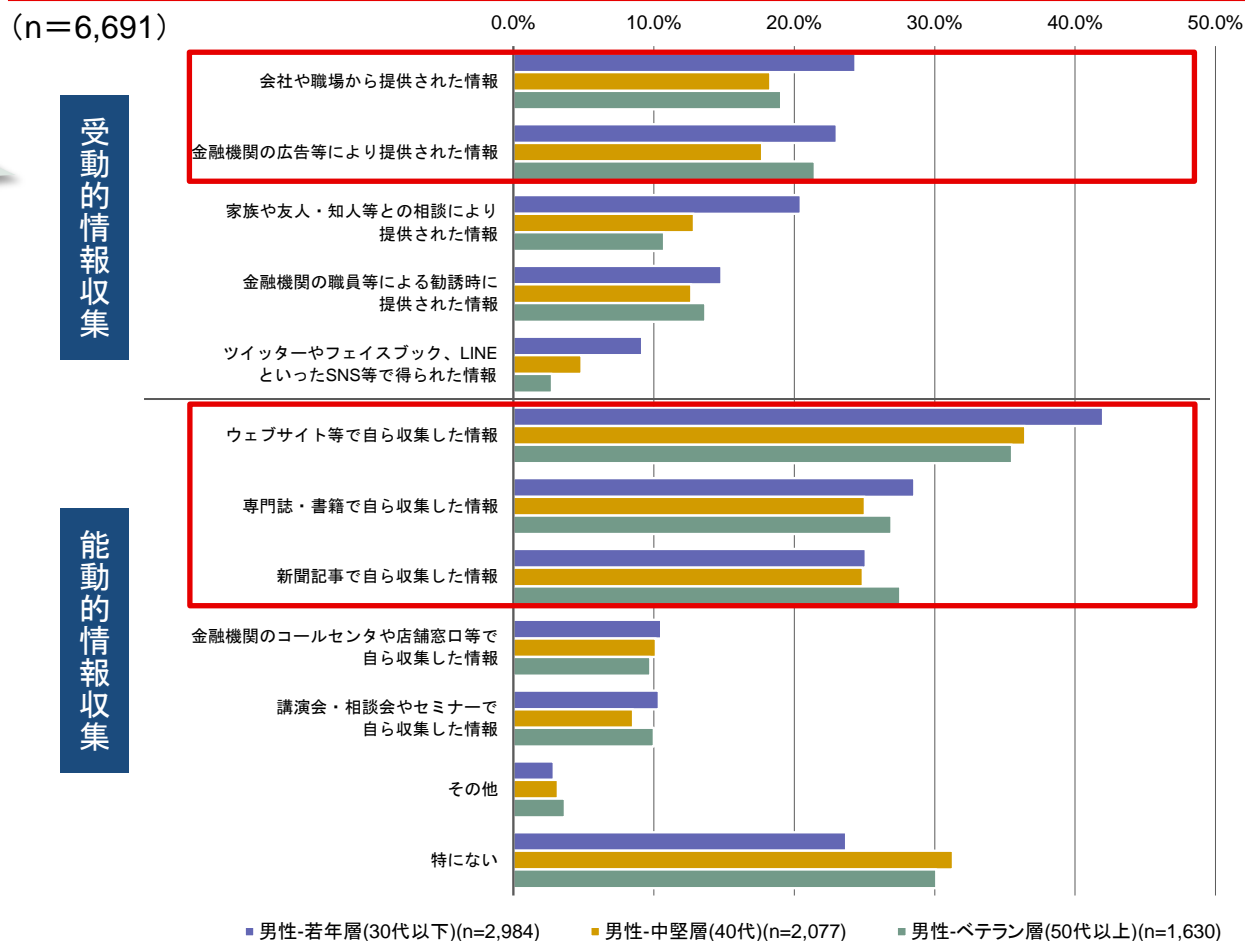
- ① 他年代と比較して、多くの情報源を活用している。
- ② 受動的情報収集の中では、会社や金融機関等から提供された情報が重視される傾向。
- ③ 能動的情報収集の中では、ウェブや書籍・新聞等の文字媒体からの情報が重視されている。

## 所感

- 若年層の男性は、他年代と比較して情報収集に関して積極的。
- 受動的に得た情報であっても、一定程度重視される傾向があるため、職場でのセミナー等も有効な情報媒体となる。

## 金融商品売買時に重視する情報

(回答者) 企業勤務者うち、男性



# 3-3.情報収集 — お金関連アプリの利用状況

## お金関連のアプリの利用率が、他年代と比較して高い傾向

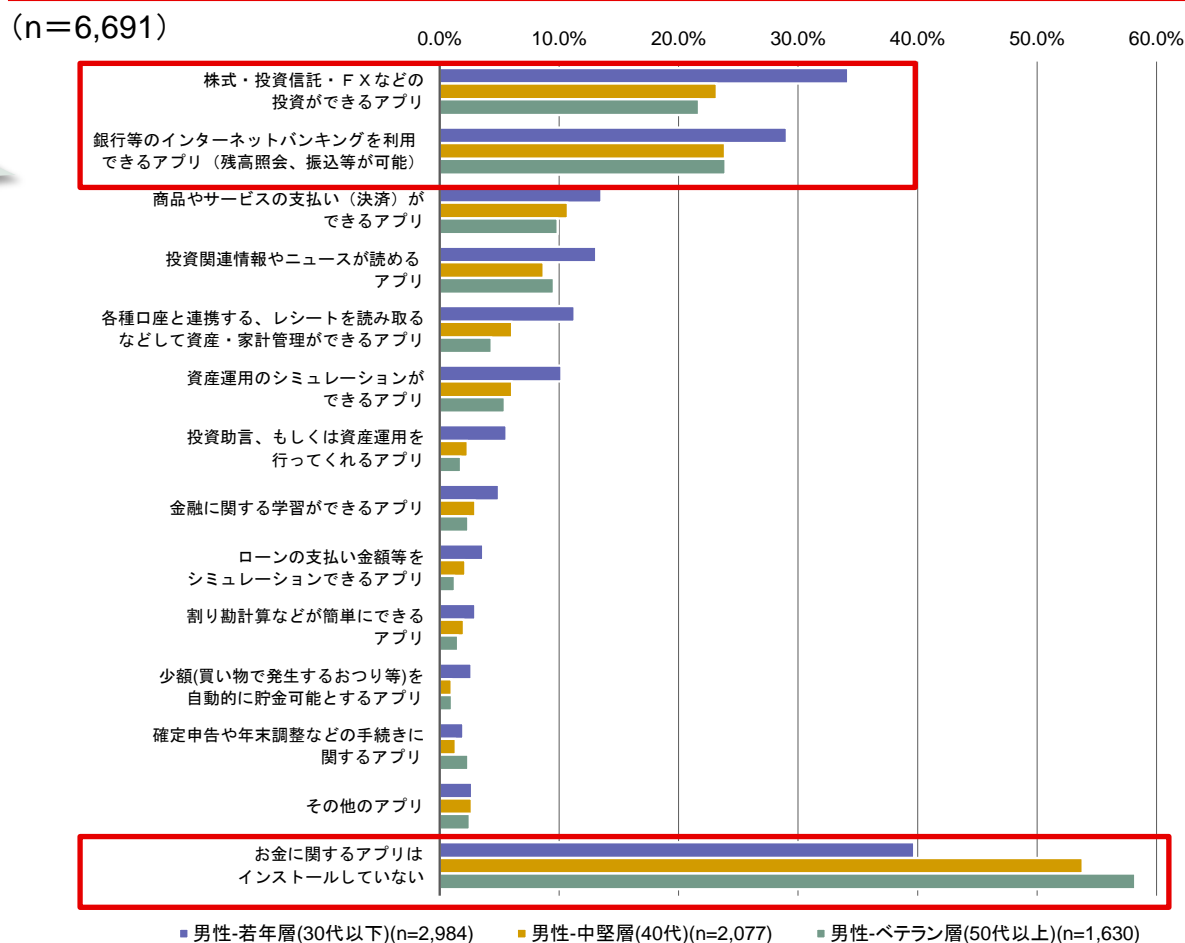
- ① 投資に関する手続きのためのアプリを活用している割合が他年代よりも高い。
- ② 一方、若年層の4割弱はお金関連のアプリをインストールしていない。

### 所感

他年代と比較すると、若年層はお金関連のアプリを使用している傾向が高いが、まだ活用が広がる余地はある。諸外国においては、アプリ普及が投資家層の拡大に寄与している事例があり、日本においてもアプリの活用にはまだ工夫の余地がある。

### 自身のスマホに入れているお金関連のアプリ

(回答者) 企業勤務者うち、男性



# 3-4.投資実施のヒント — 口座開設のきっかけ(自身に関する環境変化)

## 「一定額以上の資金の確保」の割合が過半を占める

- ① どのような変化があれば投資するかについて、「一定額以上の資産運用資金の確保」との回答が、過半を占めている。
- ② 若年層にとってより身近なイベント(就職・転職、結婚・出産等)の方が影響を与えている割合が高い。
- ③ 若年層にとっては、セミナー等による学習経験も有効なきっかけのひとつ。

### 所感

少額からの投資による積立で投資の効果が認識されれば、投資家層拡大に繋がると考えられる。

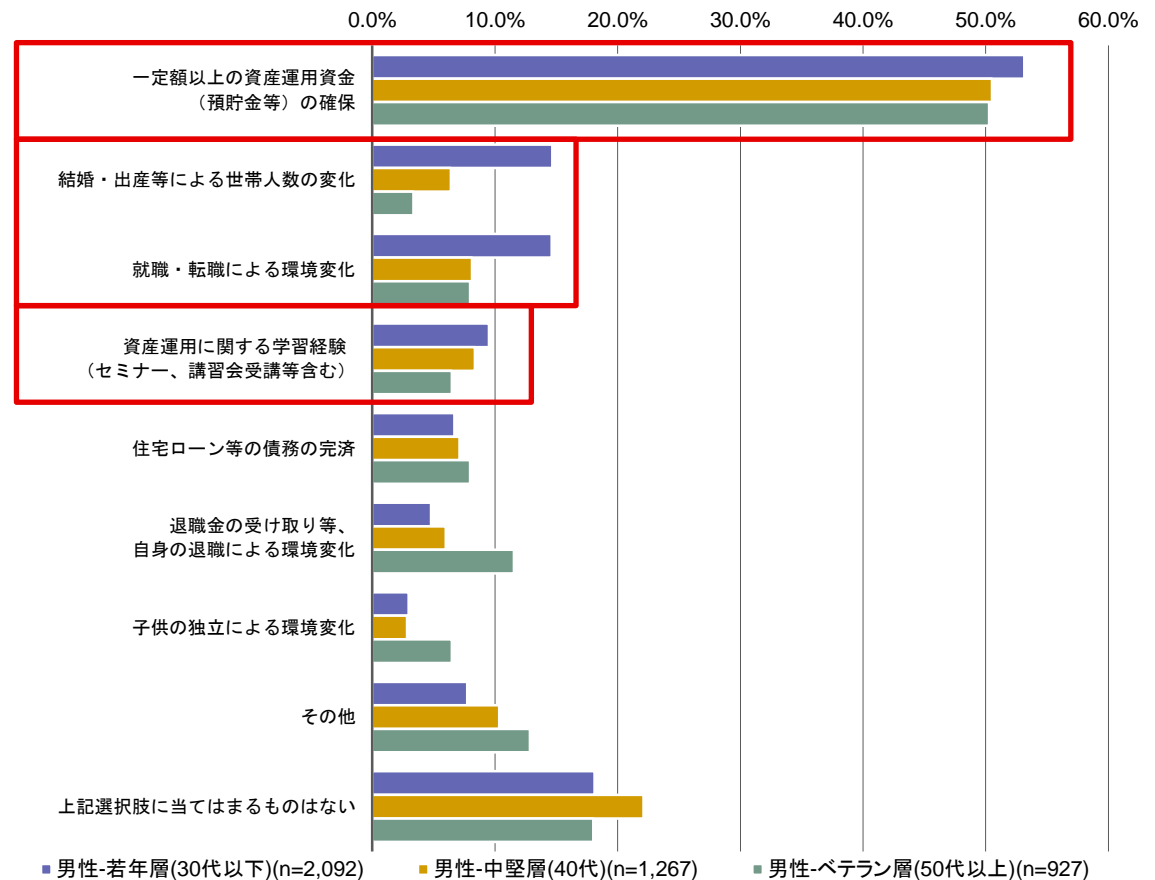
若年層にとって、就職や結婚がより現実味を増すこの時期は、投資に対する認識を変化させる良い機会となる。

### 投資用口座開設のきっかけに影響する、自身に関する環境変化

(回答者) 企業勤務者のうち、個人的な投資経験<sup>※1</sup>について、「投資(口座開設)を検討したことがない」以外を選択した人(5,318名)のうち、男性

2 3 4 5

(n=4,286)



※1: 企業型DCでの投資経験を除く



# 3-4.投資実施のヒント — 投資用口座の開設を検討した目的

「長期的な利回り」の他、「短期的な利益」「税金の節約」等の目的を挙げる人もいる

- ① 投資口座開設の目的として、「老後の生活資金」「長期的な利回り」が多い一方で、短期的な利益を得ようとする姿勢や節税の意識が相対的に高い。
- ② 経済社会の勉強のためという学習意欲も相対的に高め。

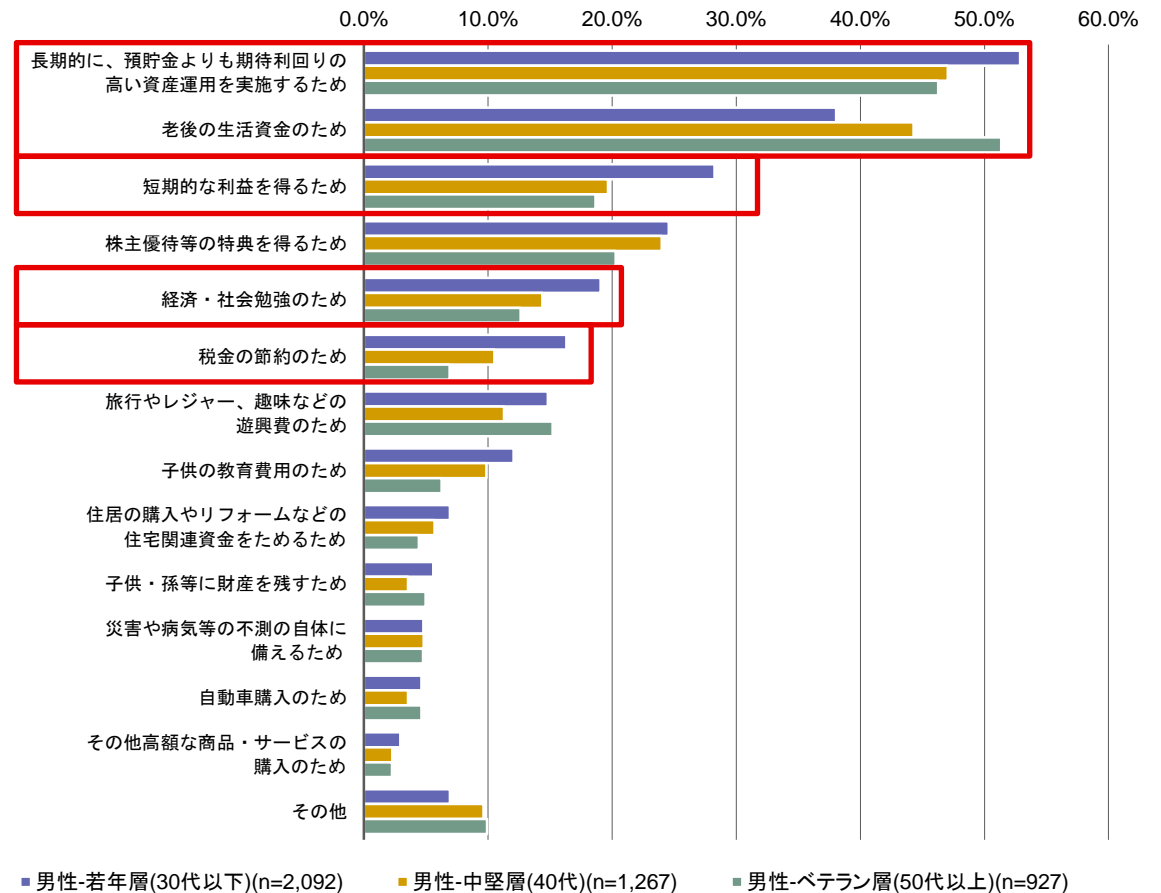
## 所感

- 短期的な投資であっても、余裕資金の範囲内であれば、その経験は有益。一歩進んで、資産形成をする上での長期投資への理解が進めば、投資家層として更なる拡大が期待できる。
- 節税意識もあるので、NISA・DCなどの制度の有効性が認識されれば、その活用が進むと考えられる。
- 経済、社会を学ぶ意識も高いので、長期・積立投資の認識が浸透する土壌がある。

## 投資用口座の開設を検討した目的

(回答者) 企業勤務者のうち、個人的な投資経験<sup>※1</sup>について、「投資（口座開設）を検討したことがない」以外を選択した人(5,318名)のうち、男性 2 3 4 5

(n=4,286)



※1: 企業型DCでの投資経験を除く

# 3-4.投資実施のヒント — 「口座開設手続き開始」のステップに到達しなかった理由

## 「十分な知識がない」「損をするのが不安」と回答した人の割合が高い

### 投資用口座開設の検討はしたが、手続きをしなかった理由

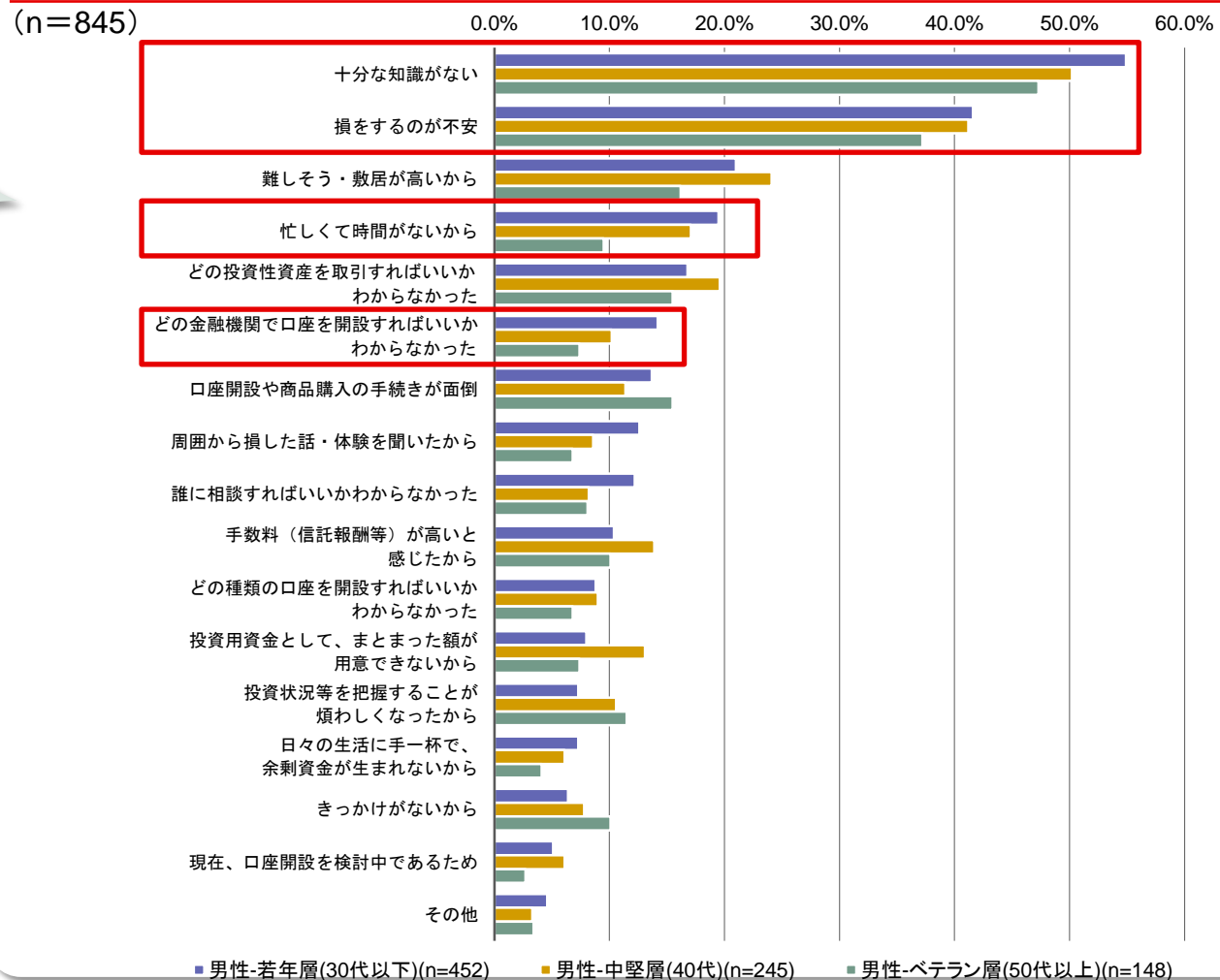
(回答者) 企業勤務者のうち、個人的な投資経験<sup>※1</sup>において、「投資用口座の開設を検討したことはあるが、実際には手続きをしなかった」を選択した人(1,114名)のうち、男性

2

- ① 検討しながらも投資用口座を開設しない主な理由として、「知識不足」と「損への懸念」の割合が高い。
- ② 他年代との比較でみると、若年層の場合は、「どの金融機関で口座を開設すればいいかわからなかった」「忙しくて時間がない」等の割合も高い。

#### 所感

投資への関心が高いにもかかわらず、知識面や損をすることへの懸念、忙しさ等が阻害要因となっている。



※1: 企業型DCでの投資経験を除く

# 3-4.投資実施のヒント — 「投資実施」のステップに到達しなかった理由

## 「知識不足」「忙しい」「損への懸念」が投資を実施する際のハードル

- ① 投資用口座の開設まで進んだ人は、検討のみでその先に進まなかった人(前頁)と比較して、知識不足や損への懸念が小さくなっていることがわかる。
- ② 一方で、どの銘柄を選べばよいか分からない、忙しいといった、現実的な課題が阻害要因となっている。

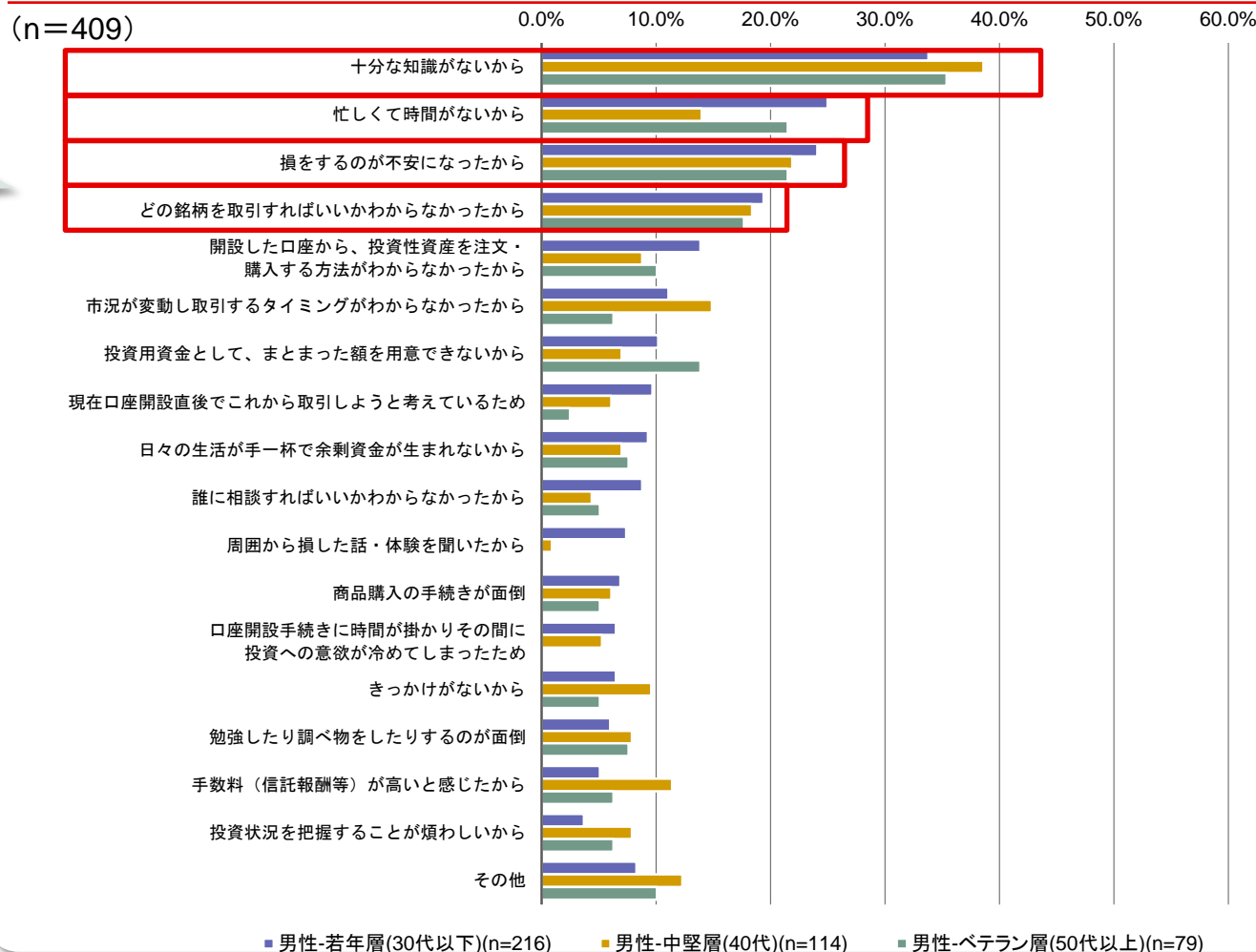
### 所感

- 投資開始前の局面では、どの商品でどのような銘柄を、という具体的な銘柄選択が障壁となるケースが多い。
- 「忙しさ」を理由に投資用口座の開設手続きを途中で止めてしまった人の割合は約20%弱(前頁より)。対して、同じ「忙しさ」を理由に投資しなかった人の割合は約25%と若干高め。「投資実施」の方が、「口座開設手続き完了」よりもハードルが高いと推測できる。

### 投資用口座の開設は完了したが、投資しなかった理由

(回答者) 企業勤務者のうち、個人的な投資経験<sup>※1</sup>について、「手続きを完了して投資用口座を開設したが、投資しなかった(投資していない)」を選択した人(518名)のうち、男性

4



※1: 企業型DCでの投資経験を除く

# 3-4.投資実施のヒント — 投資への敷居を下げる要素

## 投資への敷居を下げるキーワードは「少額・安心・手続きの簡便性」

投資への敷居を下げるための要素は、以下に大別できる。

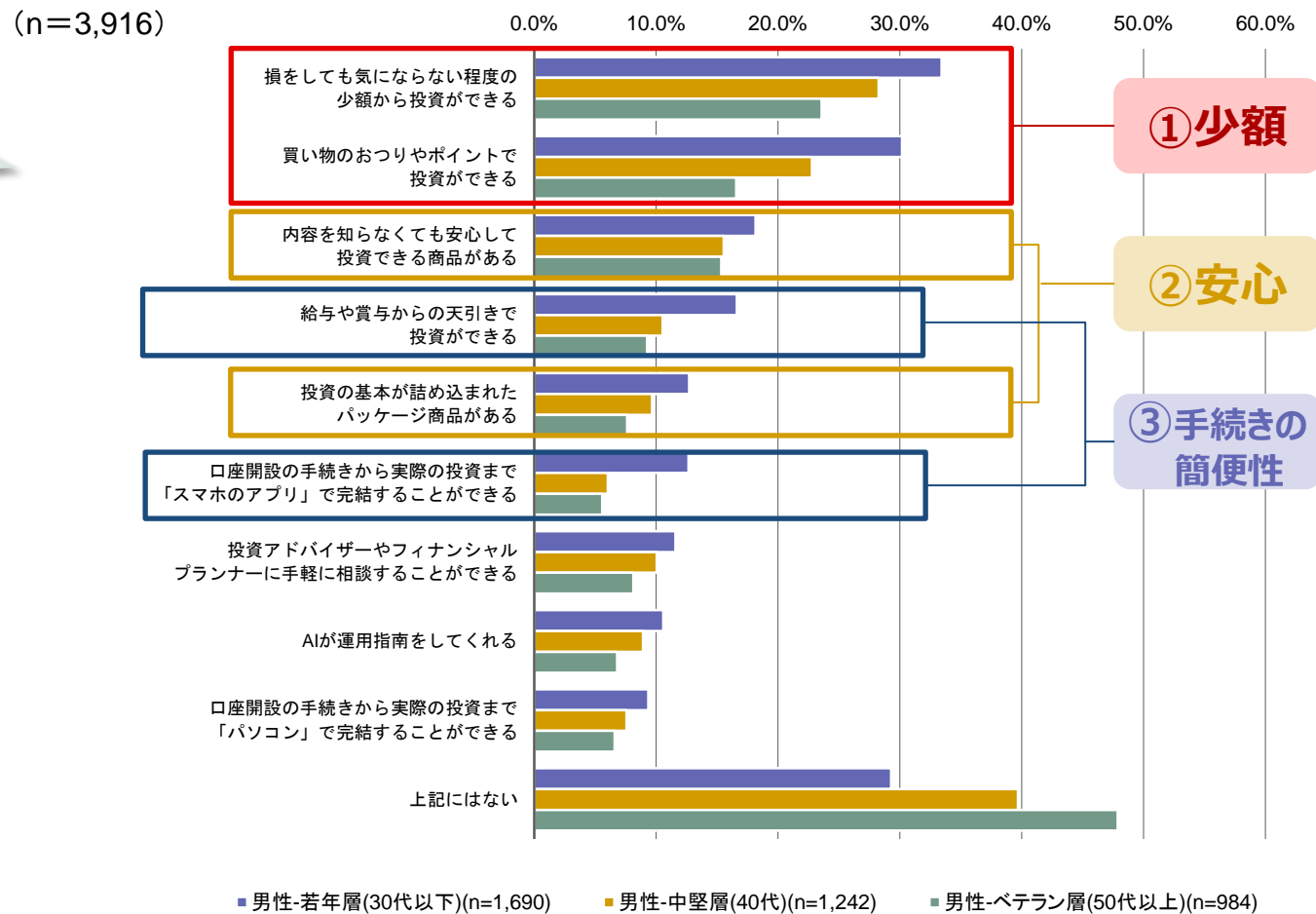
- ① 損の気にならない少額
- ② 安心できる商品
- ③ 手続きの簡便性  
(給与天引き・スマホアプリ等)

### 所感

- 積立投資の効果や投資本来の意味(中長期的な成長への投資)への理解が広がれば、投資が拡大する素地がある。
- 安心感さえあれば、例えば企業型確定拠出年金のデフォルトファンド※2にバランス型を導入することの理解も得られる可能性が高い。
- アプリやパソコンから情報収集し、さらに手続きまで完結できることが、投資の後押しとなり得る。

### 各種商品性・利便性の提示による投資行動への影響

(回答者) 企業勤務者のうち、個人的な投資経験※1について「開設した投資用口座で、実際に投資を実施したことがある」以外を選択した人(5,138名)のうち、男性 ① ② ③ ④



※1: 企業型DCでの投資経験を除く

※2: 企業型確定拠出年金において、加入者からの運用の指図が行われるまでの間の運用方法として、あらかじめ規約に定められた運用方法(商品)。

## 4. 「年代」による金融リテラシーと投資行動の特徴【女性編】

金融リテラシー1万人調査の中から、他年代との比較において、  
若年層（30歳代以下）女性の特徴が特によく表れている設問を中心に  
掲載しています。

## 若年層（女性）の特徴

### 他年代との相対的な比較

- 自身のライフプランや投資に対する関心が高く、潜在的な学習意欲もあるが、投資の実施比率は相対的に低い。
- 自身の金融知識の水準に自信を持っていない人の割合が高く、投資の検討をしない理由として、知識不足や損への不安などを挙げる人の割合が高い。
- 友人・職場・家族など、身近な人からの話を、投資を検討・実施する際の情報源としている人の割合が高い。
- スマホの使用率が高く、家計簿アプリ、支払い決済アプリなど、生活関連のアプリを活用している。
- 投資への敷居を下げる要素として、損の気にならない程度の少額投資、安心できる商品、スマホ等の媒体を活用した手続きなどを挙げている。
- 少額の積立投資、パッケージ商品、スマホなど生活で活用している媒体による投資の自動化を仕組みとして、投資開始さえすれば口コミ等でその動きが拡大する可能性がある。

# 4-1.投資の状況 — 「投資実施までの5つのステップ」の割合

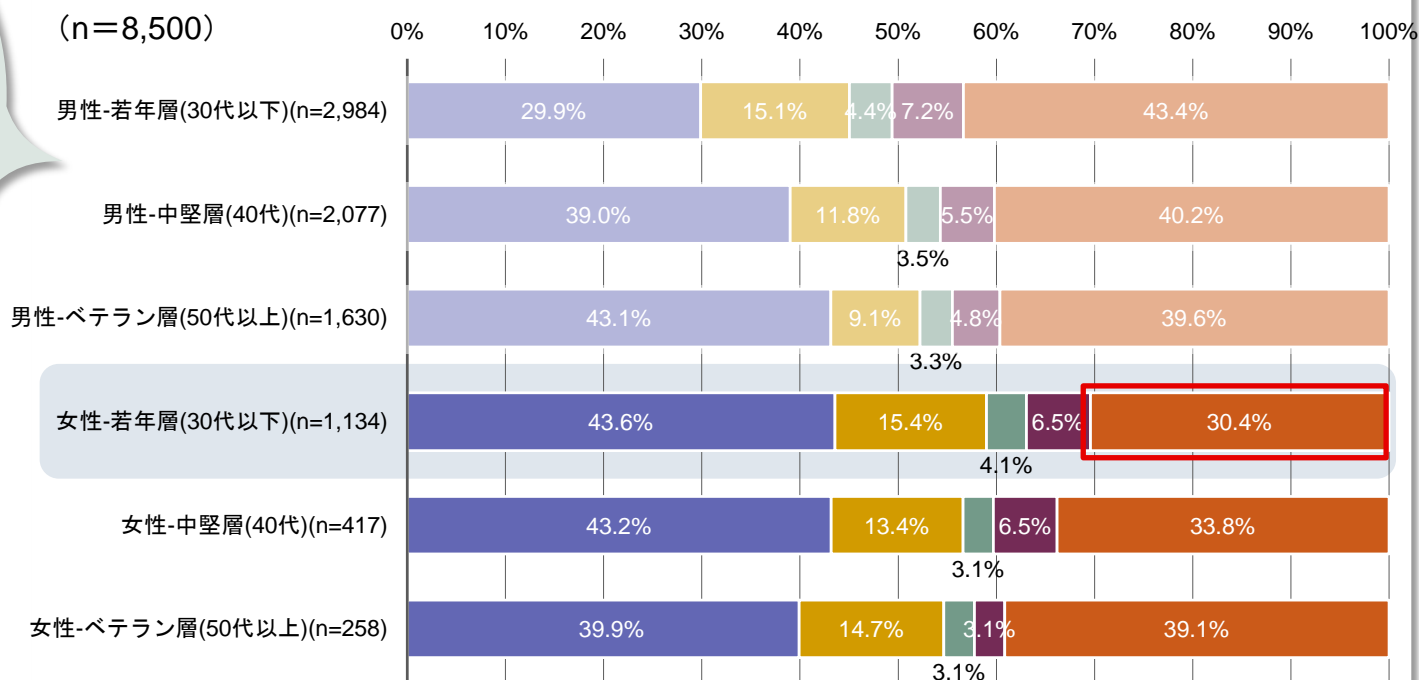
## 投資の実施比率が他年代の女性よりも相対的に低い傾向

若年層の女性は、他年代と比較して投資の実施比率が低い。

### 所感

若年層ほど投資実施の比率が低く、投資に対して慎重な姿勢がみられる。

各種投資用口座の開設に向けた検討・申込・開設・投資状況  
(回答者) 企業勤務者



### 【投資実施までのステップ】(5頁ご参照)

- 投資をしようと思ったことはない・投資用口座の開設を検討したことはない
- 投資用口座の開設を検討したことはあるが、実際には手続きをしなかった
- 投資用口座の開設の手続きを開始したが、途中で止めてしまった
- 手続きを完了して投資用口座を開設したが、投資しなかった(投資していない)
- 開設した投資用口座で、実際に投資を実施したことがある

# 4-1.投資の状況 — 投資の検討から実施までの段階別残存率

投資を検討したが、実際には投資にいたらない人は約26%存在

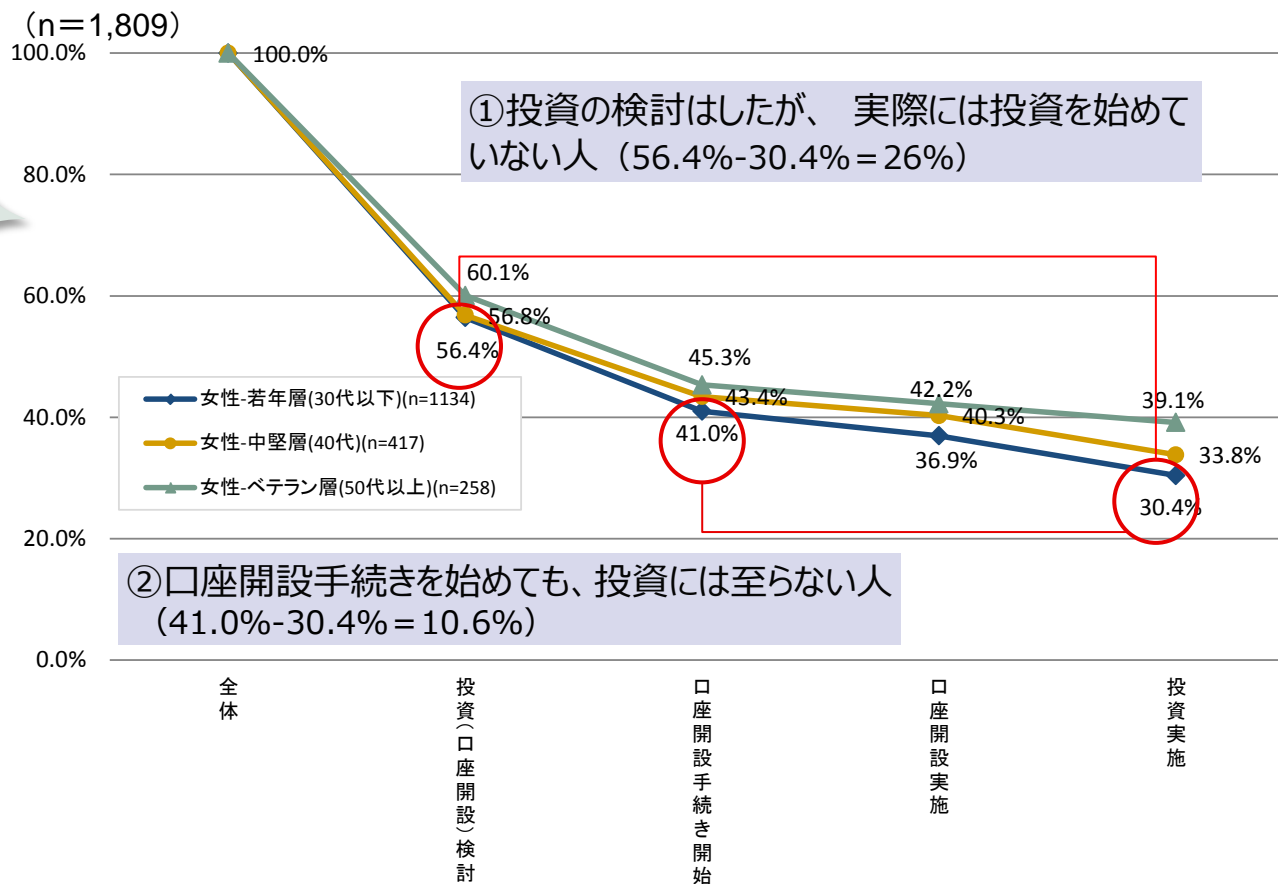
- ① 投資を検討しながらも、実際には投資を始めていない人が、26%存在する。
- ② 投資口座の開設手続きを始めても、実際に投資するまでに、10.6%の人が離脱する。

## 所感

投資に対する慎重な姿勢が、投資に関する残存率の低さに結びついている可能性がある。

### 投資の検討から実施までの段階別残存率※1

(回答者) 企業勤務者のうち、女性



※1.: 投資実施までの5つのステップに関し、それぞれの母集団のうち各ステップに到達している人が母集団全体の人数に占める比率



## 4-2.理解・関心 — 生活設計への関心

### 生活設計への関心度合いが高い傾向

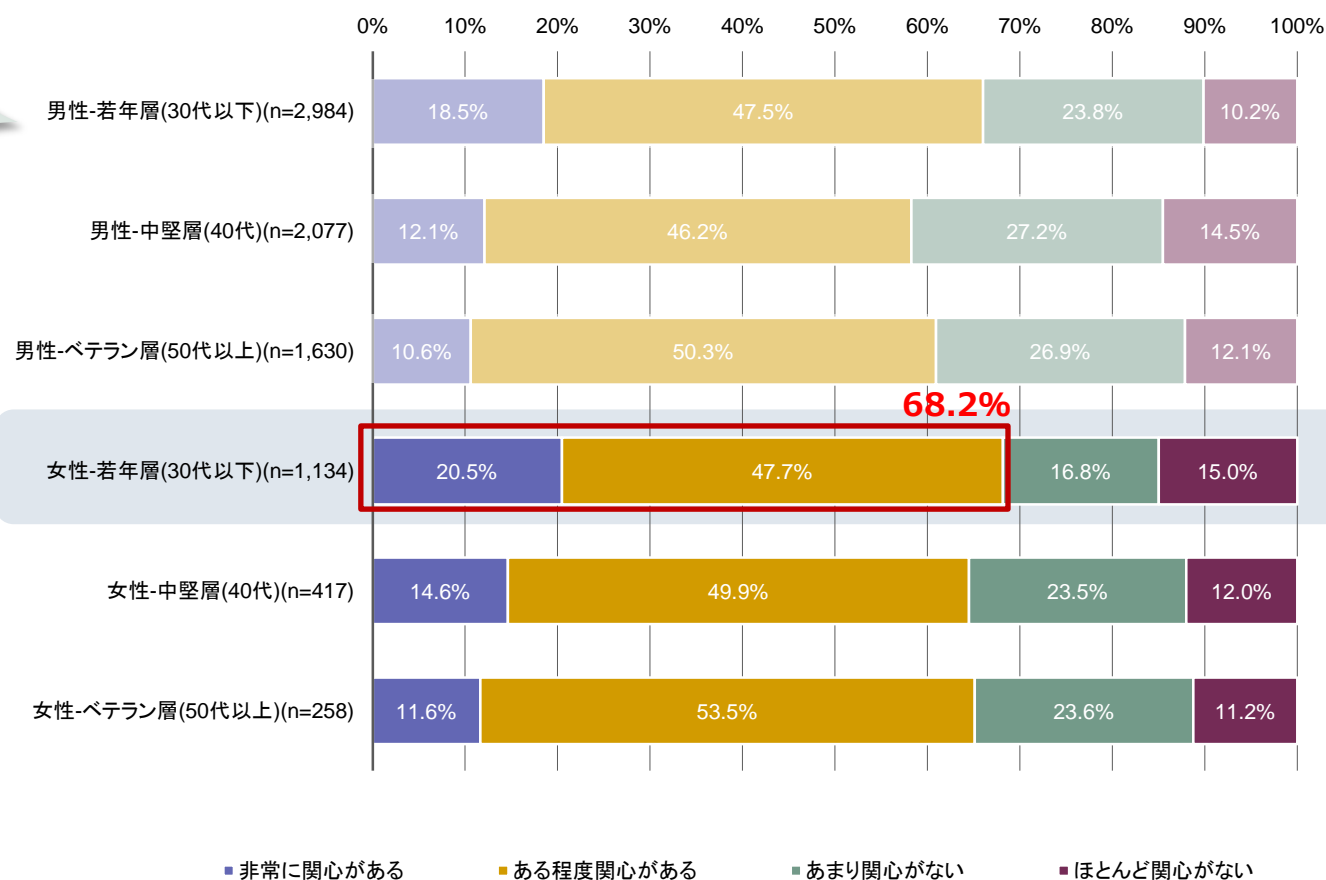
若年層の女性は、他年代の女性と比較すると、自身の生活設計への関心度合いが相対的に高い。

#### 所感

- 「関心がある」が7割弱を占め、生活を大切にしようという姿勢がみられる。
- これから経験するライフイベントが他年代よりも多く控えているためか、生活設計への関心が高い。

### 自身のライフプランを基にした生活設計への関心 (回答者) 企業勤務者

(n=8,500)



## 4-2.理解・関心 — 金融商品等の知識習得への関心度合い

金融商品の知識習得に関し過半が関心を示す一方で、「ほとんど関心がない」とする割合も高い

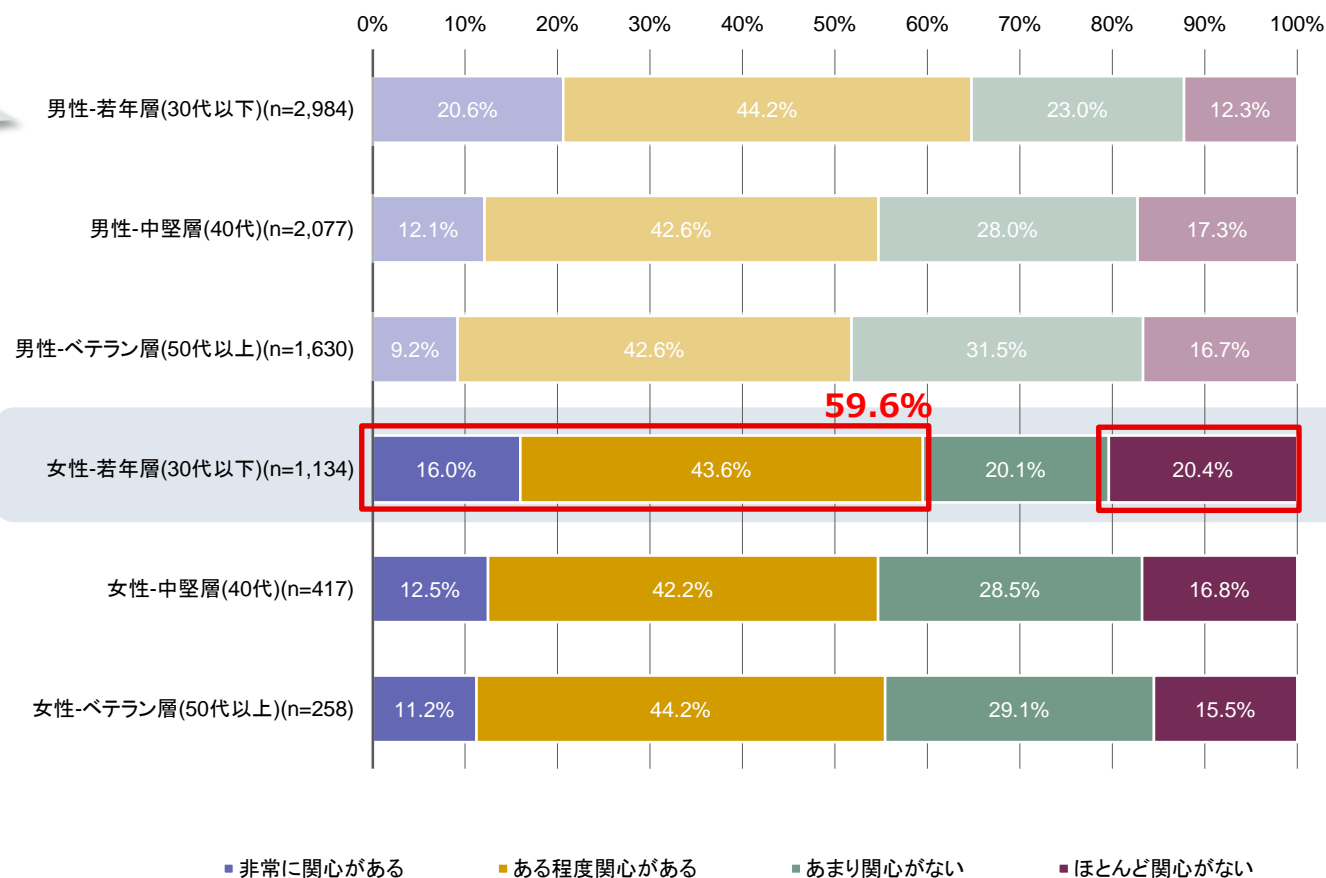
- ① 金融商品の知識習得への関心度についても過半が関心を持っており、他年代の女性と比較すると高い傾向。
- ② 一方、「ほとんど関心がない」とする人の割合は、他年代よりも高い。

### 所感

- 「関心がある」が6割弱を占め、金融商品に関する知識習得への意欲が他年代と比較して高い人が多い。
- 一方で、「ほとんど関心がない」とする割合も2割程度あり、「金融商品の知識習得」への関心度合いに差がみられる点が、若年層の女性の特徴であるといえる。

### 金融商品等の知識習得への関心度合い (回答者) 企業勤務者

(n=8,500)



## 4-2.理解・関心 — 経済理論を理解する意欲

経済理論への関心は他年代と比較して高い一方、「ほとんど関心がない」人の割合も高い

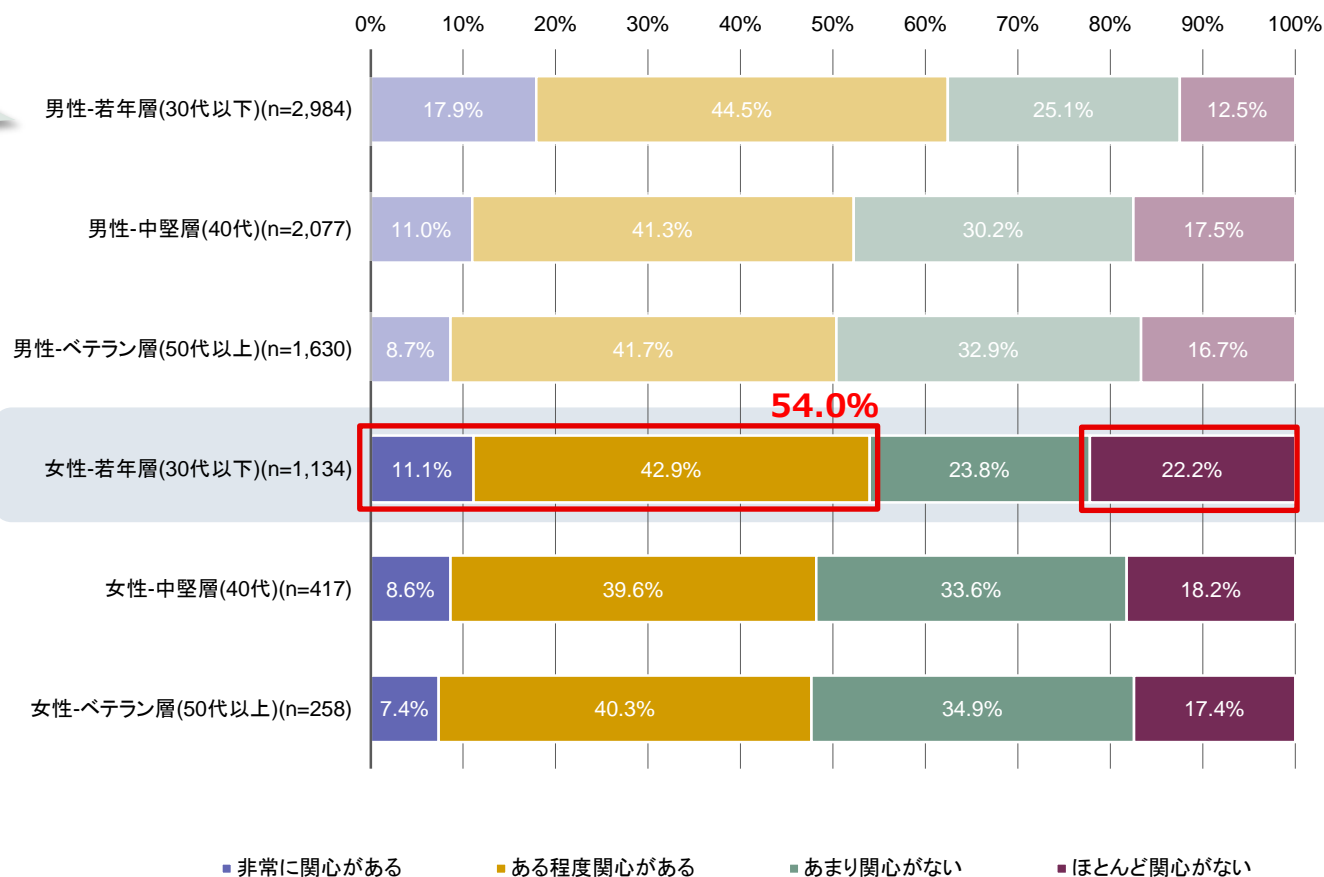
- ① 過半数が資産運用に関する経済理論を理解する意欲があると回答しており、他年代の女性と比べるとその割合が高い。
- ② 一方で、「ほとんど関心がない」とする人の割合は、他年代よりも高い。

### 所感

- 若年層の女性は、特に金融商品知識や経済理論に関して、「ほとんど関心がない」とする人の割合が他年代よりも高い。
- 一方で、ライフプランへの関心は高い人が多く、経済理論や金融商品知識がライフプランと深く関係していることが理解されれば、関心が高まる可能性がある。

### 資産運用等に関する経済理論を理解する意欲 (回答者) 企業勤務者

(n=8,500)



# 4-2.理解・関心 — 金融商品の特性・取引の特徴に関する理解の程度

## 自身の金融知識の水準に自信を持ってない人の割合が高い

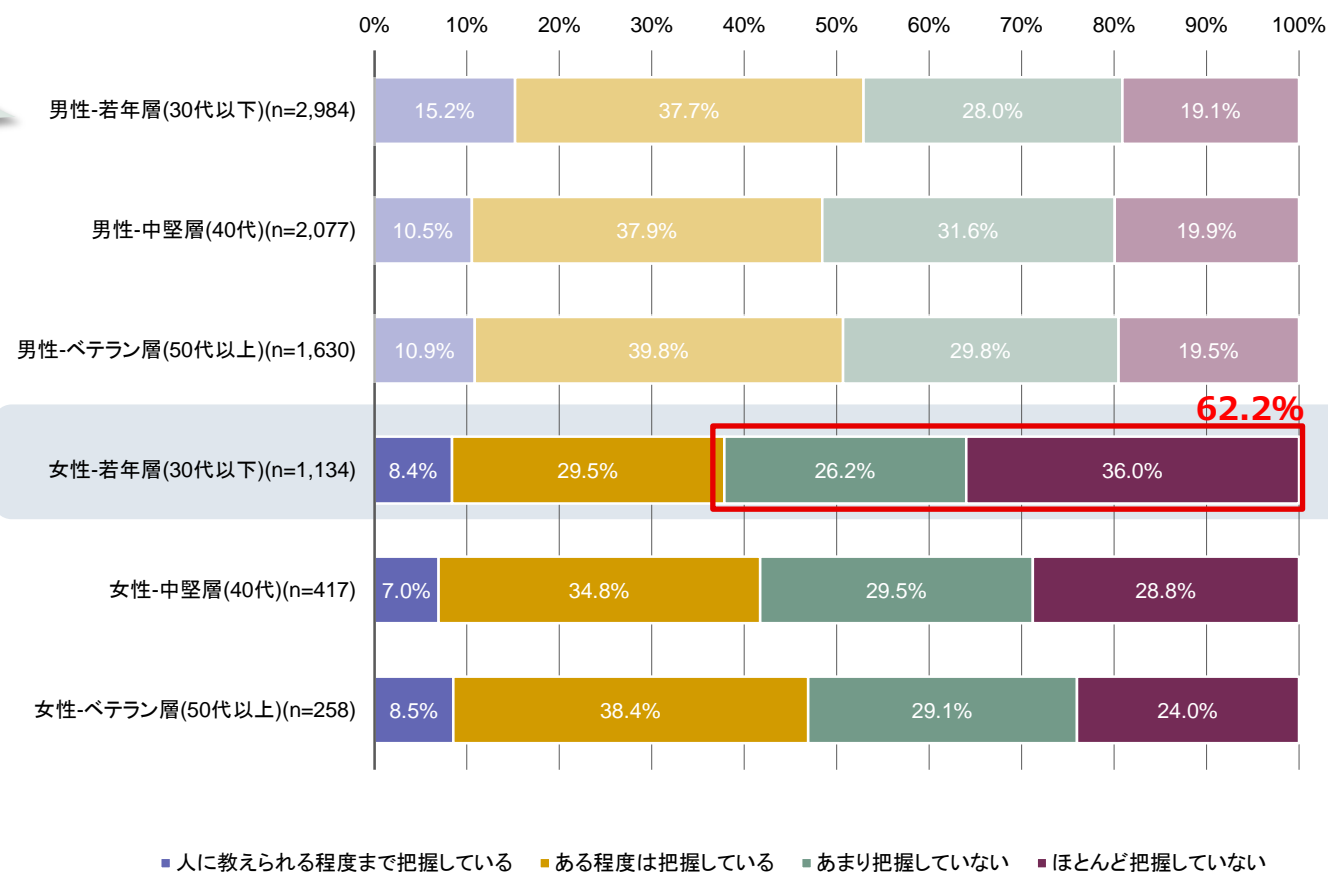
NISA制度への理解の水準が低いと感じている比率が、他年代と比較して相対的に高い。

### 所感

同様の設問を「外貨預金」「株式」「確定拠出年金の概要」「投資信託」「国債・公社債」についても聞いており、いずれについても「NISA制度」の場合と同様、若年層の女性は自身の理解度が低いと感じている傾向がみられる。

### 金融商品の特性・取引の特徴に関する理解の程度（自己申告） （「NISA制度」について） （回答者）企業勤務者

(n=8,500)



## 4-2.理解・関心 — NISA制度に関するテスト問題の正否

### NISA制度への理解度は、他年代と比較して遜色ない水準

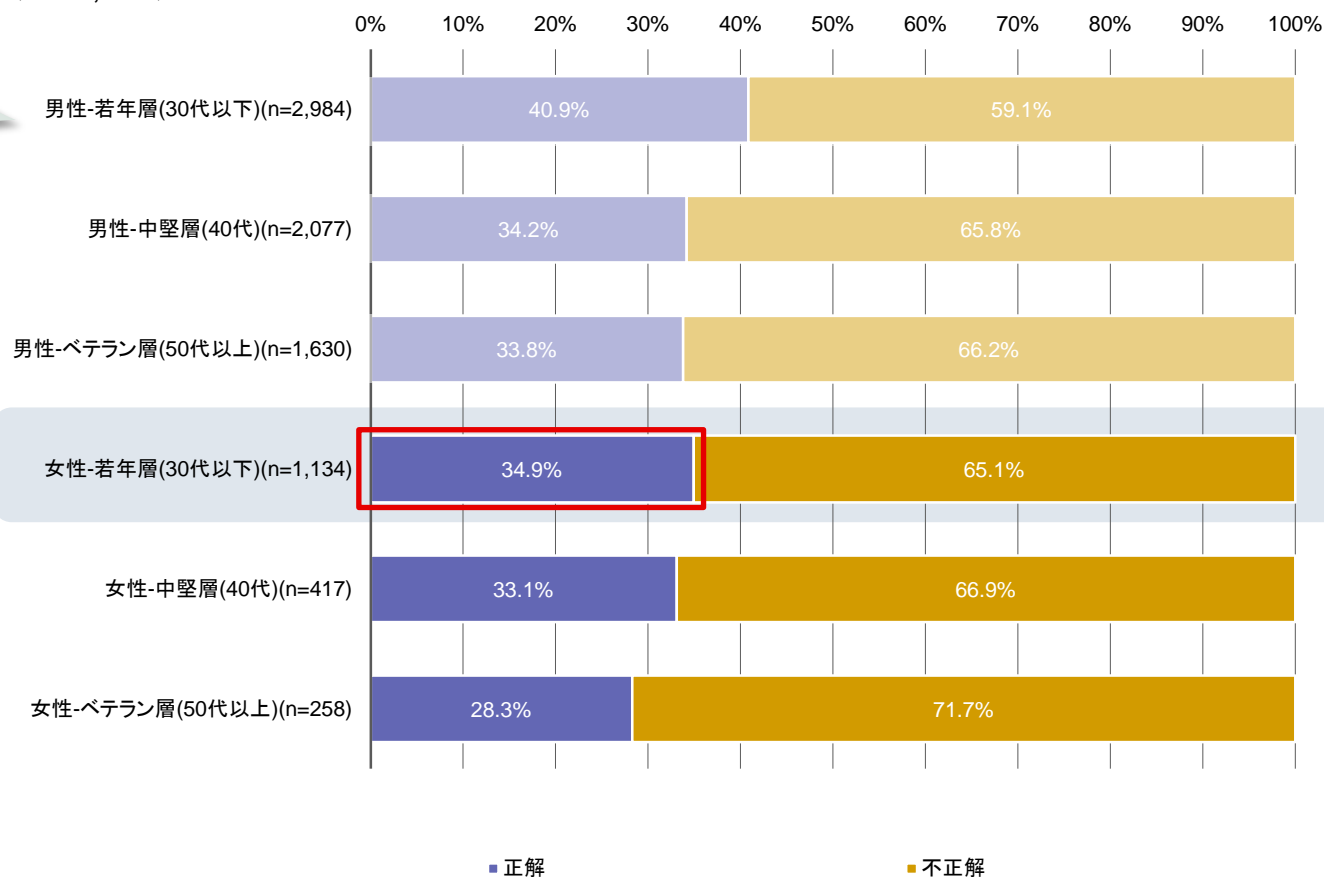
若年層の女性は、  
NISA制度に関して、  
他の年代の女性と比較  
しても遜色ない水準。

#### 所感

- NISA制度に対する理解の程度について(前頁)「把握していない」と回答した人の割合が6割超と、不正解の人の割合とほぼ同等。
- 若年層の女性は、自身の理解度をある程度正確に捉えており、等身大の回答をしているといえる。

#### NISA制度に関するテスト問題※1の正否 (回答者) 企業勤務者

(n=8,500)



※1:【テスト問題の概要】NISA制度の概要に関する記述に対して、5つの選択肢から正しい選択肢1つを選択する問題。

# 4-3. 情報収集 — 投資開始後の学習状況

## 「職場の研修」や「ウェブ」で学習している人の割合が高い

### 投資開始後の学習状況

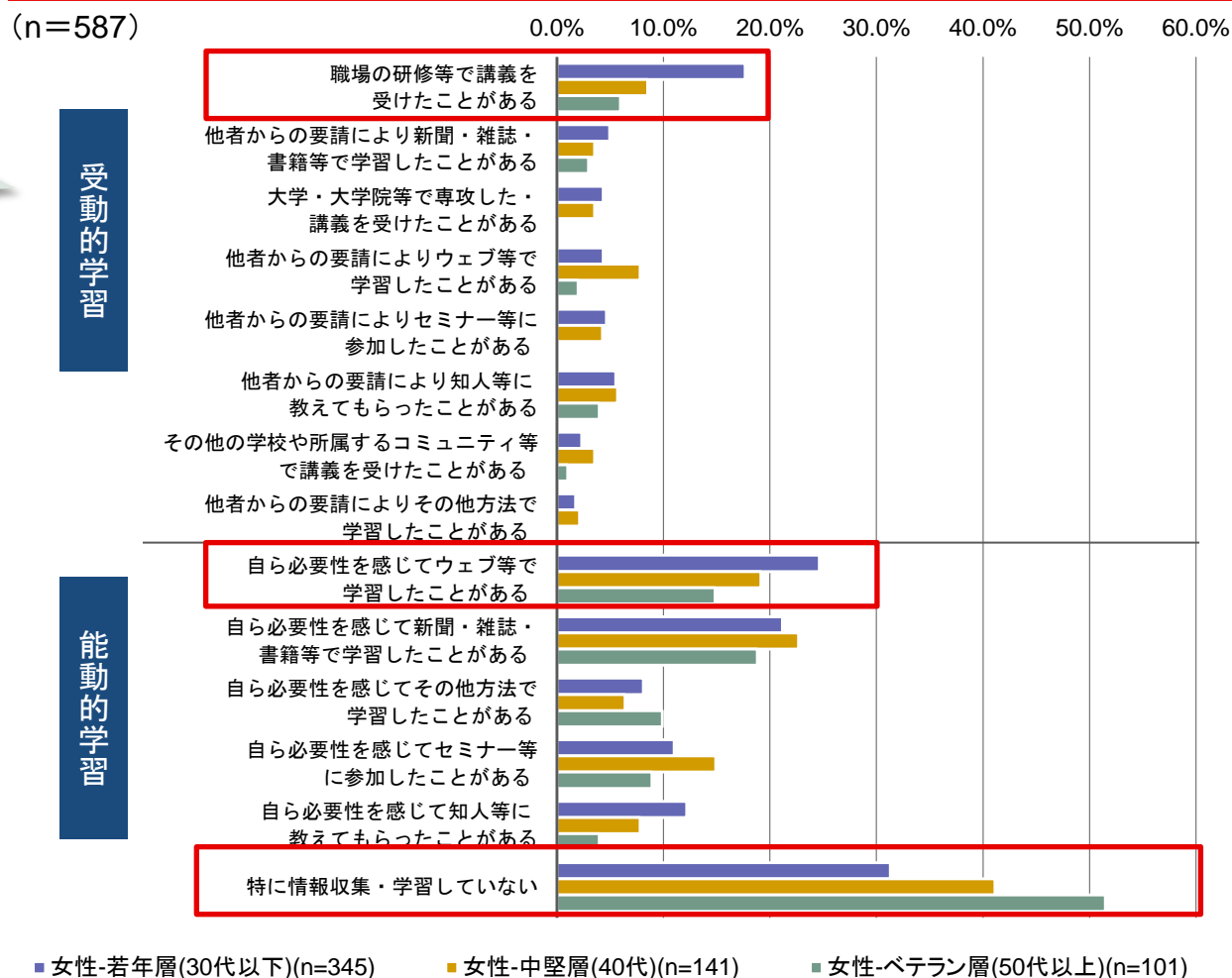
企業勤務者のうち、個人的な投資経験<sup>※1</sup>について「開設した投資用口座で、実際に投資を実施したことがある」を選択した人(3,362)名のうち、女性

5

- ① 他年代と比較すると、受動的学習の中では「職場の研修」、能動的学習の中では「ウェブ」により学習している人の割合が高い。
- ② 一方で、投資開始後に「特に情報収集・学習をしていない」人も一定程度存在。

#### 所感

「職場の研修等で講義を受けたことがある」人の割合が若年層を中心に多いことから、強制参加の研修を実施することで、投資に関する学習や情報収集を促すことも有効と考えられる。



※1: 企業型DCでの投資経験を除く

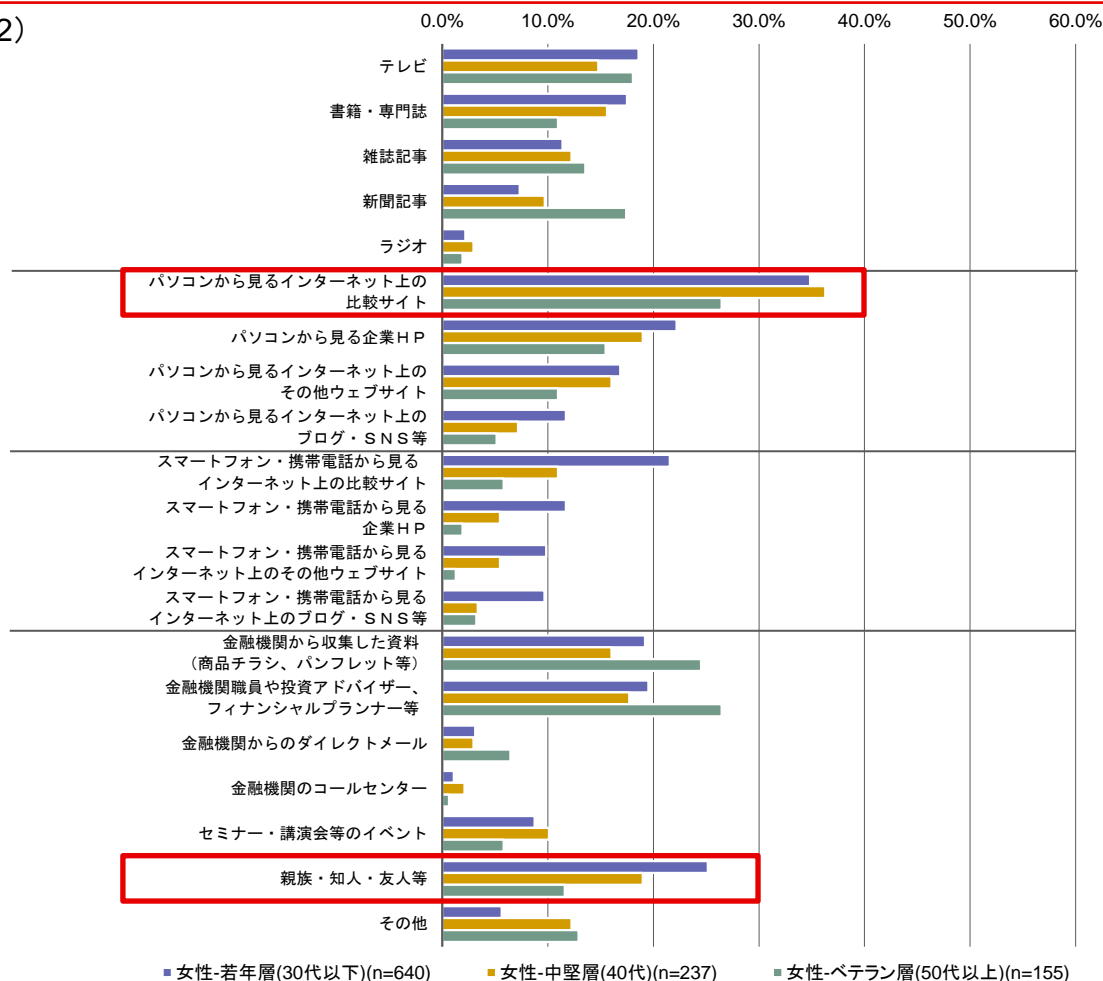
# 4-3.情報収集 — 「口座開設検討時」の情報収集

## 口座開設検討時の情報収集媒体としてはスマホよりもパソコンが好まれる

### 口座開設検討時の情報収集媒体

(回答者) 企業勤務者のうち、個人的な投資経験<sup>※1</sup>について「投資（口座開設）を検討したことがない」以外を選択した人(5,318名)のうち、女性 2 3 4 5

(n=1,032)



- ① 口座開設を検討したときの情報収集媒体として、パソコンを活用する人の割合が高い。
- ② 人づての情報を活用する人の割合が高く、若年層は中でも「親族・知人・友人」といった身近な人からの情報を活用する傾向がある。

#### 所感

- 情報収集媒体として、パソコンから見る比較サイトや企業HPが選択されている点は男性と同様。
- パソコンによる情報収集に次いで、若年層の女性は身近な人から情報収集する点に特徴がある。

※1: 企業型DCでの投資経験を除く

# 4-3.情報収集 — 「金融商品売買時」の情報収集

## 金融商品売買時にも、「人づて」の情報を重視する傾向が高い

- ① 金融商品売買時の情報源としても、ウェブに次いで、人づての情報を重視する人の割合が高い。特に家族や知人、職場といった身近な人からの情報を重視する傾向がある。
- ② SNS等を活用している割合が他年代と比較して高い。

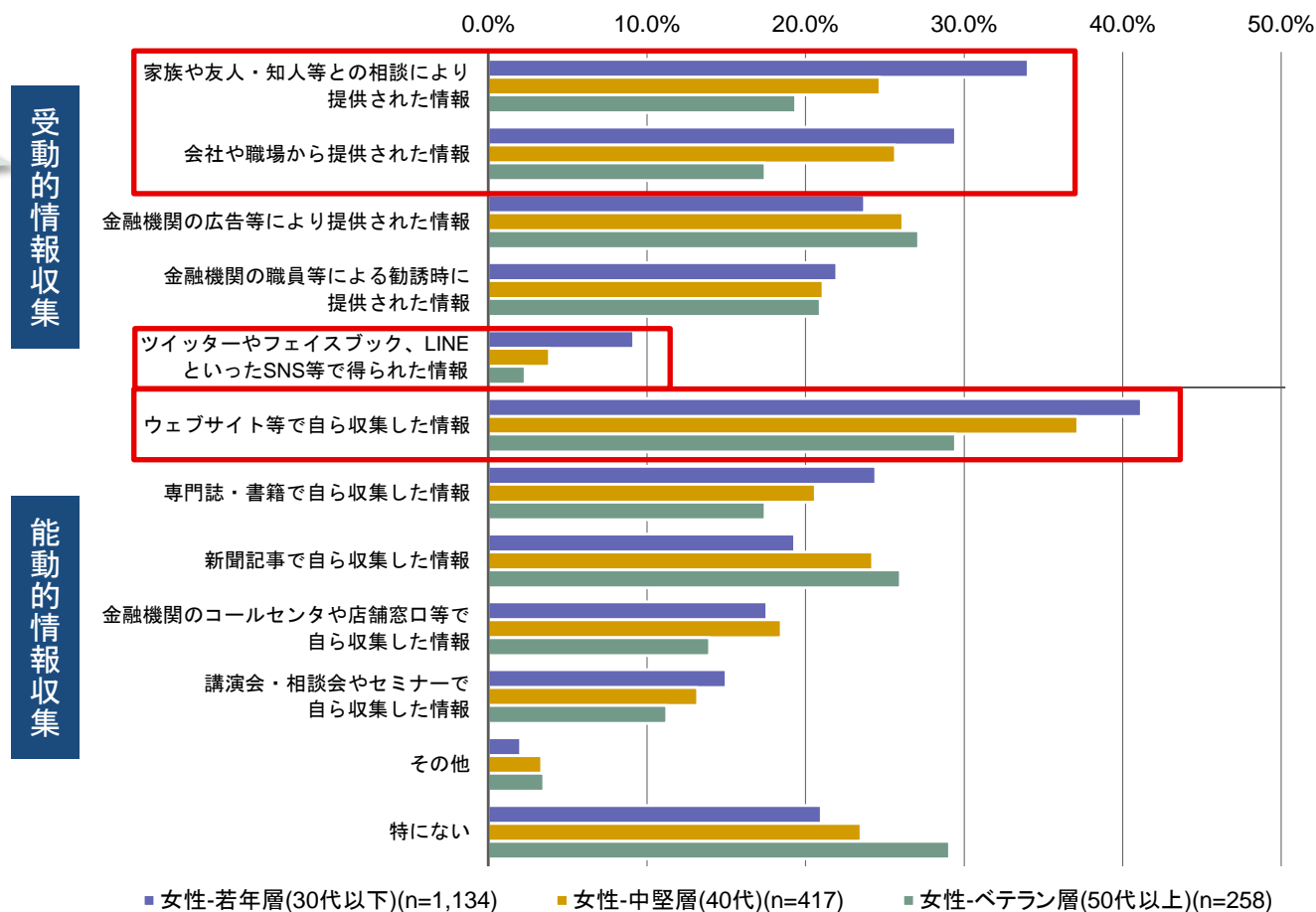
### 所感

人づての情報を重視し、SNS等で情報収集する傾向もあることから、一部の人のみならず、投資の意義が認められれば、口コミ等でその情報が広がる可能性がある。

### 金融商品売買時に重視する情報

(回答者) 企業勤務者のうち、女性

(n=1,809)





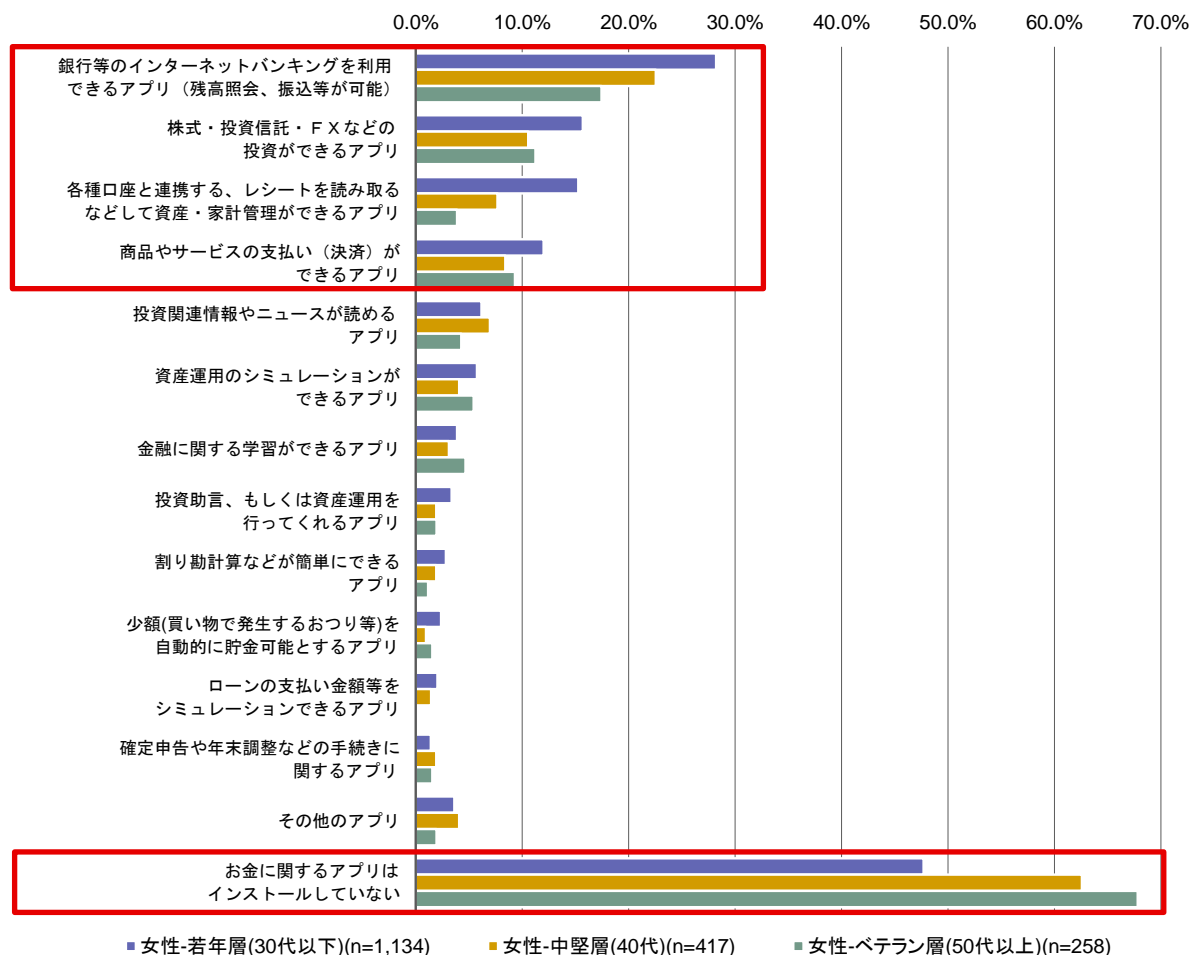
# 4-3.情報収集 — お金関連アプリの利用状況

インターネットバンキングや、日常生活において使用するアプリの使用頻度が高い

## 自身のスマホに入れているお金関連のアプリ

(回答者) 企業勤務者のうち、女性

(n=1,809)



- ① インターネットバンキング用のアプリのほか、家計簿アプリや商品・サービスの決済ができるアプリの活用比率が他年代と比較して高い。
- ② 一方、若年層の5割弱はお金関連のアプリをインストールしていない。

### 所感

他年代と比較してお金関連アプリの活用比率は高いが、まだ活用が広がる余地がある。

# 4-4.投資実施のヒント — 「投資検討」のステップに到達しなかった理由

## 「十分な知識がない」「損をするのが不安」と回答した人の割合が高い

### 投資(口座開設)の検討をしなかった理由

(回答者) 企業勤務者のうち、個人的な投資経験<sup>※1</sup>について「投資(口座開設)を検討したことがない」を選択した人(3,182名)のうち、女性

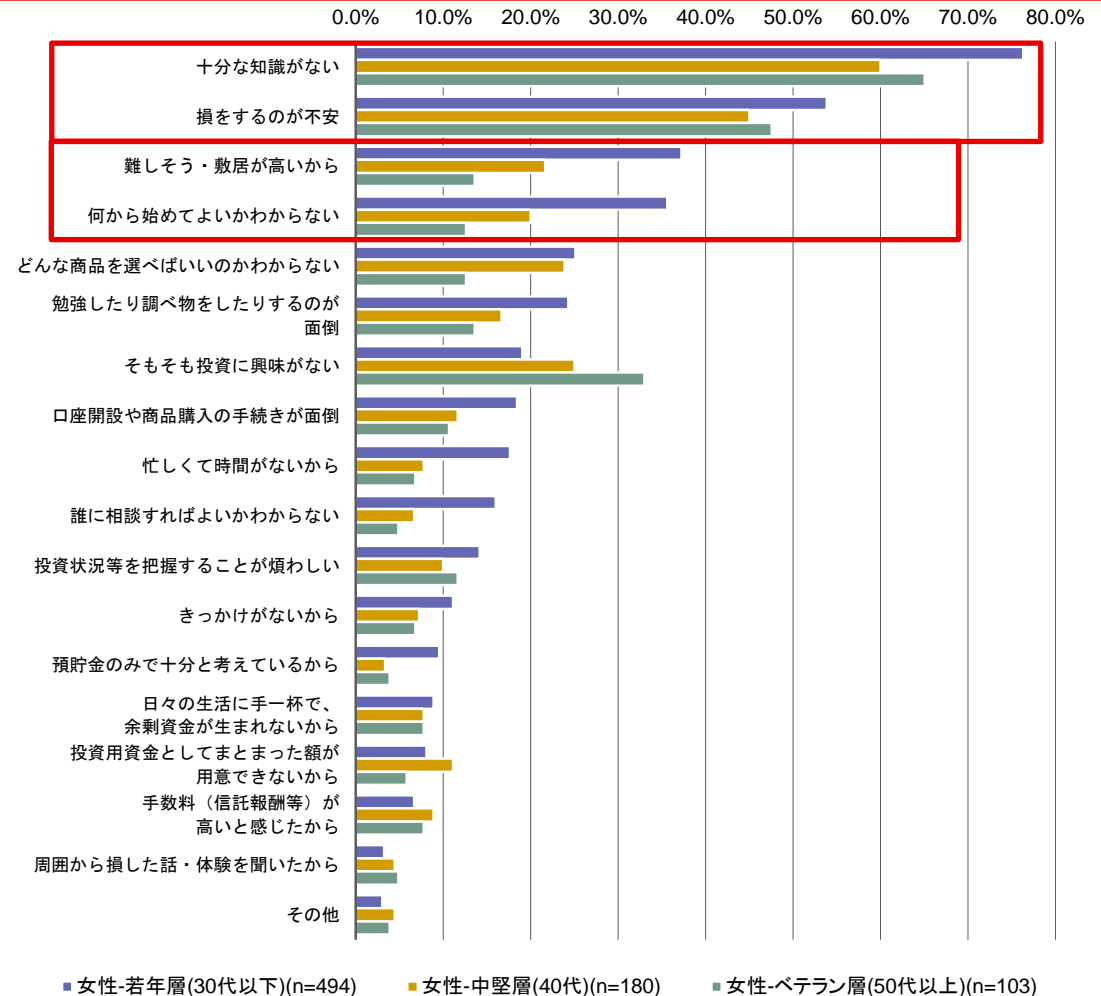
1

- ①「十分な知識がない」「損をするのが不安」と回答した人の割合が高い。
- ②他年代の女性と比較すると、「難しそう」「何から始めてよいかわからない」を挙げる人の割合も相対的に高い。

#### 所感

若年層は、他年代と比較して、「難しそう」「何から始めてよいかわからない」を挙げる人の割合が高く、投資への関心はあるにも関わらず、自身の知識に自信が持てない様子がみられる。

(n=777)



※1: 企業型DCでの投資経験を除く

# 4-4.投資実施のヒント — 口座開設のきっかけ(外部からの働きかけ)

## 知人や親族等、人づての情報が口座開設のきっかけとなる割合が高い

### 投資用口座開設のきっかけに影響する、外部からの働きかけ

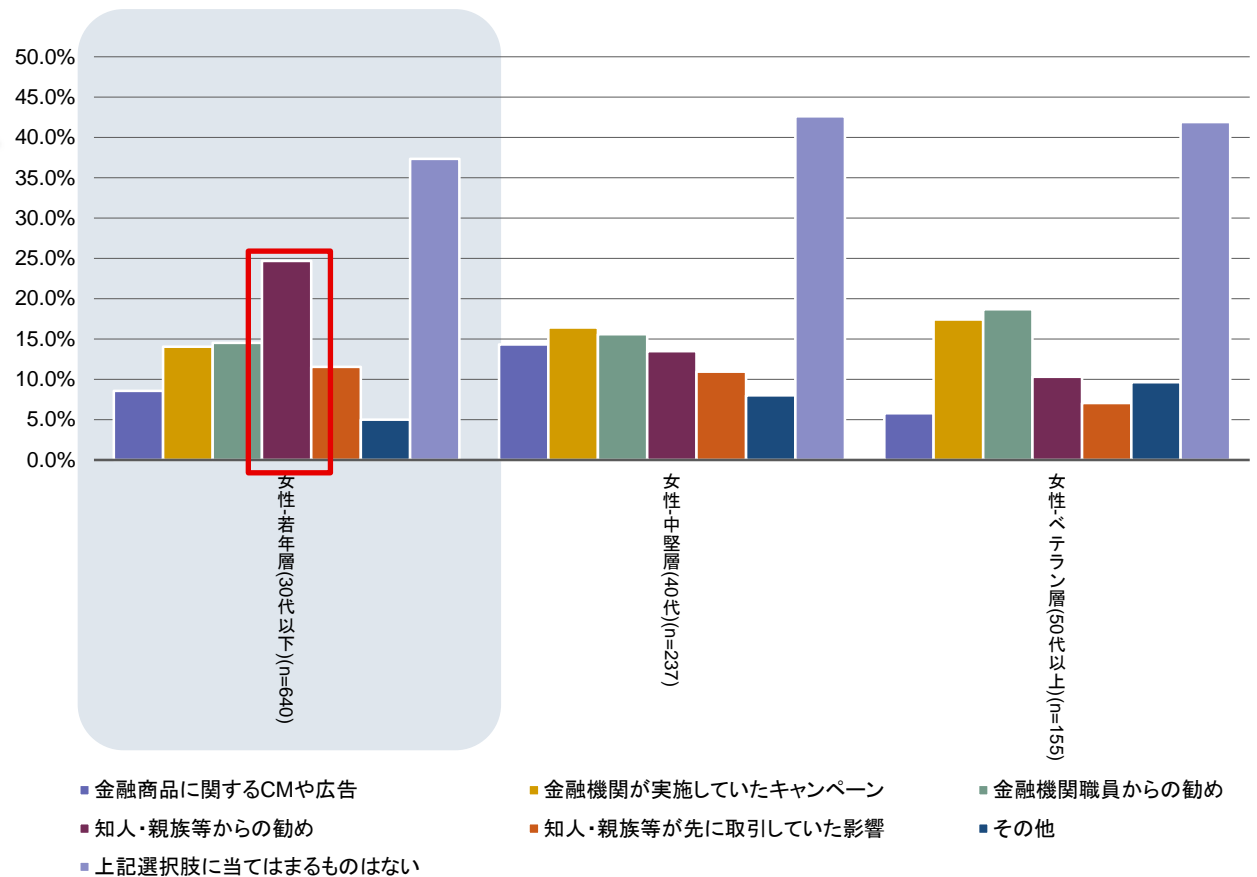
(回答者) 企業勤務者のうち、個人的な投資経験<sup>※1</sup>について「投資(口座開設)を検討したことがない」以外を選択した人(5,318名)のうち、女性 ② ③ ④ ⑤

知人や親族等、身近な人からの影響により、口座を開設している人の割合が他年代と比較して高い。

#### 所感

SNS等のコミュニケーション手段が発達した状況を踏まえると、若年層の女性が共通の認識を持ち、例えば「投資用口座開設」等の行動を取ると、人づてでその動き(情報)が拡大する可能性がある。

(n=1,032)



※1: 企業型DCでの投資経験を除く

# 4-4.投資実施のヒント — 投資への敷居を下げる要素

## 投資への敷居を下げるキーワードは「少額・安心・手続きの簡便性」

投資への敷居を下げるための要素は、以下に大別できる。

- ① 損の気にならない少額
- ② 安心できる商品
- ③ 手続きの簡便性  
(給与天引き・スマホアプリ等)

若年層の女性の特徴として、「専門家の意見を聞きたい」とする比率も高い。

### 所感

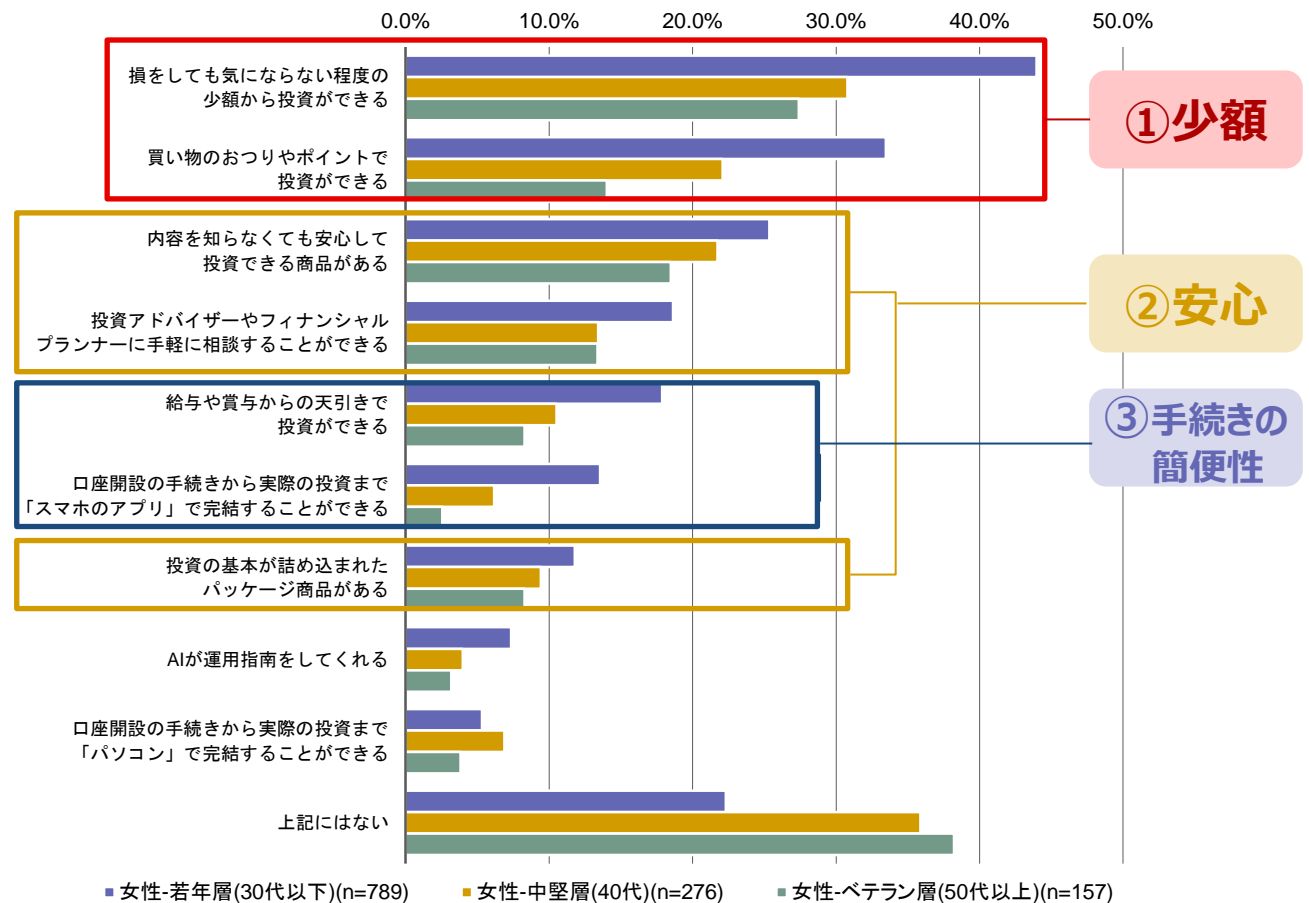
- 例えば、ある商品につき、「安心できるパッケージ商品」という共通認識が広がれば、口コミ等の効果で拡散する可能性がある。
- スマホのアプリ等の媒体から、上記のような情報(口コミ)の拡散と、さらに手続きまで完結できると仕組みがあると効果的。

### どのような利便性・商品性があれば、投資を始めるか

(回答者) 企業勤務者のうち、個人的な投資経験<sup>※1</sup>について「開設した投資用口座で、実際に投資を実施したことがある」以外を選択した人(5,138名)のうち、女性

① ② ③ ④

(n=1,222)



※1: 企業型DCでの投資経験を除く

# ご留意事項

- MUFG資産形成研究所は、三菱UFJ信託銀行が、現役世代から退職後の世代までを対象に資産形成・資産運用に関する調査・研究等の活動を行う際の呼称です。
- 本資料は情報提供を目的としたものであり、特定の金融商品の取得・勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料に掲載の情報は作成時点のものです。また、本資料は三菱UFJ信託銀行が各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性について保証するものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、三菱UFJ信託銀行は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は三菱UFJ信託銀行の著作物であり、著作権法により保護されております。本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、三菱UFJ信託銀行までご連絡ください。

本資料に関するお問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行 資産形成アドバイザー部  
E-mail : [mufg-sisan\\_post@tr.mufg.jp](mailto:mufg-sisan_post@tr.mufg.jp)

三菱UFJ信託銀行株式会社 資産形成アドバイザー一部  
〒100-8212 東京都千代田区丸の内1-4-5

[www.tr.mufg.jp/shisan-ken/](http://www.tr.mufg.jp/shisan-ken/)

MUFG資産形成研究所は、三菱UFJ信託銀行が資産形成・資産運用に関する調査・研究等の活動を対外的に行う際の呼称です。